

(1) 穀目 針 糸 機 (作風子) 高英 飛川 翠傳

F-0354

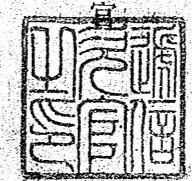
0008

セ  
5/5  
(分限/月/日)

空監第五九八號  
昭和十二年二月九日  
遞信省  
名 邦人...  
有添付物  
昭和十二年貳月拾日  
遞信省  
12.2.10

外務次官殿

遞信次



亞歐聯絡飛行ニ關スル件

右ニ關シ朝日新聞社ヨリ別紙寫ノ通願出有之候處當省トシテハ本飛行カ關係各國トノ親善上寄與スルトゴロ多大ナルモノアルヘシト認メ可及的援助ヲ與ヘ之カ達成ヲ期セシメ度意嚮ニ有之候條關係各國政府ニ對シ其ノ領土上ノ航空許可方及飛行場、格納庫ノ使用、氣象報ノ供與等何分ノ便宜供與依頼方可然御取計相煩度及御依頼候追テ使用機ノ標識、飛行日程等ハ決定次第更ニ可及通報申添候

F-0354

0009



昭和十二年一月二十日

東京市麹町區有樂町二丁目三番地

朝日新聞社航空部長

河内 一彦

逓信大臣 頼母木桂吉殿

亞歐連絡飛行許可御願

弊社儀

英國皇帝戴冠式奉祝ヲ兼ネ亞歐連絡飛行ヲ左記要領ニ依リ實施致度候間何卒特別ノ御  
詮議ヲ以テ御許可賜度此段奉願上候

東京朝日新聞發行所

左記

一、航空ノ時期 昭和十二年 自四月一日 至五月卅一日

二、使用飛行機 三菱式 <sup>カリガネ</sup>雁 型中島式空冷五五〇馬力 壹機

三、乗員 一等飛行機操縦士二等航空士 飯沼 正明 <sup>フナノアキ</sup>

航空機關士兼無線通信士 塚越 賢爾 <sup>ツカノシゲノリ</sup>

四、航空路 往路 東京—臺北—河内—カルカッタ—<sup>カラチ</sup>シヨドール—<sup>ハヌラ</sup>ガヤネタ

—バグダット—アゼンヌ—ローマ—巴里—倫敦

復路 往路ト同シ

着陸給油地 國名 備考

臺北	東京	東京	日本	日本
----	----	----	----	----

告出

河内	佛領	印度支那	英領	英領	シヨドアル	ジャスコ	バグダット	アゼンス	ローマ	パリ	倫敦	
印度支那	英領	英領	印度領	印度領	ベルシヤ	イラク	ギリシヤ	イタリー	フランス	イギリス		
マシダレー (英領印度) 都合ニヨリ着陸スルヤモ知レズ			アラハバッド (英領印度)		カラオ (英領印度)		ジャスコ		ダマスカス (佛委任統治領)		同	
同			同		同		同		同		同	

但シ倫敦着後ベルリン、フランクフル、パリ、ローマ等西歐諸國首都訪問飛行ヲ  
行ヒ再ビ倫敦ニ歸着ス

機中  
未定

東京朝日新聞發行所



昭和十二年一月二十六日

東京市麴町區有樂町二丁目三番地

東京朝日新聞社航空部長

河内 一彦

遞信大臣 頼母木 桂吉殿

亞歐連絡飛行着陸地追加願

弊社儀

昭和十二年一月二十日付ヲ以テ亞歐連絡飛行許可方及御願候處原則トシテハ臺北河内  
間ハ直航ノ豫定ナルモ萬一ノ場合香港ニ離着陸致度候間右御許可相成度此段願上候  
備考

東京朝日新聞發行所

一、航空路 東京―臺北―香港―河内（以下略）  
二、離着陸地 香港（英租借地）

第三課長 歐亞局

東三局長 第一課長

(分送5門 1/1 2/1 3/1)

2515 號

暗 電送第 12.2.18 日 9時30分 發

主 管 歐亞局長

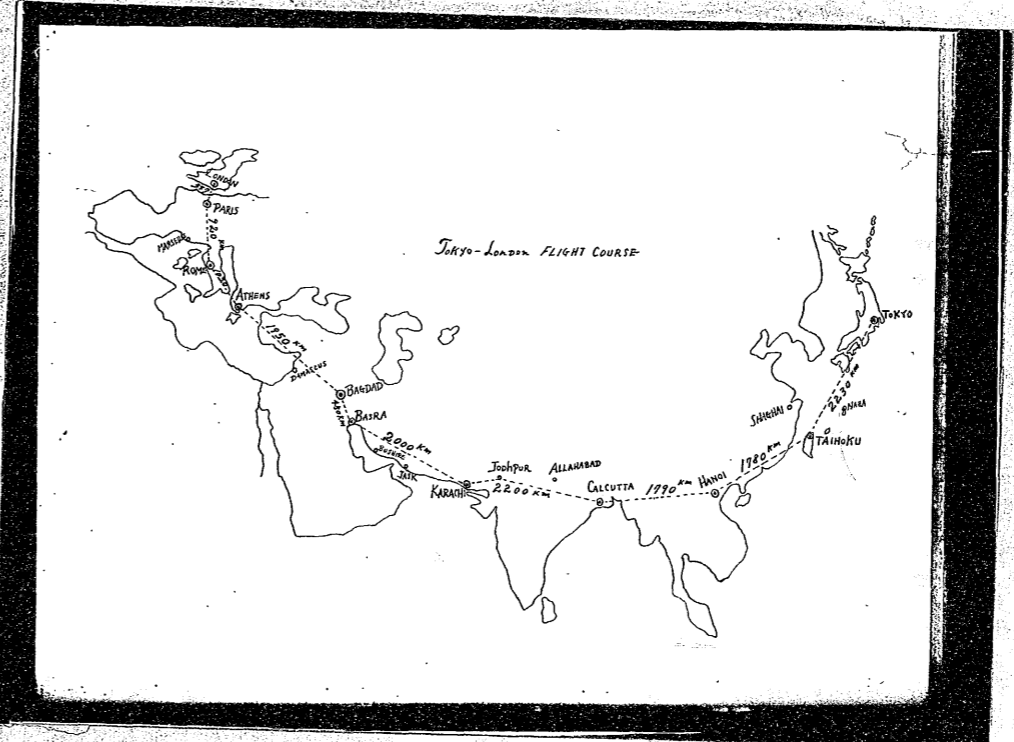
任 主

電信課長

昭和十一年二月十八日起草

第 五 六 號

電 信 案	祝 7 華 示 亞 改 聯 航 行 7 行 7 行 函	今般朝日新聞社より英国自王立中表年	朝日新聞奉祝 飛行1件	在英 吉田 大使	發 林 大臣
外 務 省	一 行 函 係 同 一 行 可 取 付 二 分 願 出 下 リ 又 ハ	往復	名 件 録 記 本 邦 人 航 空 飛 行 機 體		



持念、中世、百走、

電 信 案	五 豫 定 航 空 路	外 務 省
三 期 内	四月一日ヨリ五月三十一日迄ノ内	
四 航 空 機 國 籍 日 本	(標識 堪航證明書 五 携帶品ハ決定次第追報ス)	
三 乗 員 二 名	一等飛行機操縦士 飯沼正明 イ・ヌ・マ・サ・ア	
	航空機機員士無線通信士 塚越賢爾 ツカゴシケンジ	
	航空機 五五〇馬力 七七機	

(原議用紙乙)

電 信 案	一 使 用 飛 行 機	外 務 省
	雁三菱式型 中島式 カリガキ	
	ニテモ昇意 回電アリケン	
	上 英國政府ハ海申入相成先シ内意 大急急	
	ニト必要ト存セラル、ヲ以テ左記海知 英國側ニ昇意上昇意ハ確メ置キ 本件計画ハ頓挫ヲ来スハハニ付豫メ ト思召ス先以テ合同ノ意向ヲ 是迄英國側ニ於テハ何等昇意 ナキ事ト	

(原議用紙乙)

F-0354

0014

電信案

外務省

七. 復路 - 往路トヘンジ  
 (倫敦着后 伯林、ブライツセル、巴黎、ワグネル、  
 等ノ訪内飛行ヲ行フ豫定)

(原議用紙乙)

電信案

外務省

セーユ  
 度) ジャスク(イラン) ガマスク(シリア) マル  
 マンダレー、アラハバッド、ジョドバル (以上英領節  
 区、不時着陸豫定地  
 巴里 - 倫敦  
 カラチ、バスター、バグダッド、雅典、ワグネル、  
 東京 - 台北 - 香港 - 河内 - カルカッタ

(原議用紙乙)



電信課長

大臣  
次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 文書 會計 秘書官

寫送先

昭和12 三三七一 暗

倫敦

二月廿五日前着

歐

林外務大臣

第九六號

吉田大使

貴電第六六號ニ關シ

外務省宛照會シ置キタル處廿四日係官ヨリ電話ニテ不取敢トシテ今  
次御申出ノ次第ハ英政府ニ於テモ御好意ヲ多ト致シ居レルモ戴冠式  
當時公式行事輻輳スル折柄此ノ種ノ飛行ニ付一ツヲ認ムルトキハ他  
國ヨリモ多數同様ノ申出アルヘク其ノ結果種々混雜ヲ來ス惧アルニ  
付トノ趣旨ヲ以テ體ヨク斷リ來リ尙其ノ節係官ノ内話ニテハ過日米  
國側ヨリモ同様ノ照會ニ接シタルヲ以テ我方ニ對スルト同趣旨ニテ

外務省

回答シタル趣ナリ(了)

外務省

記録簿本邦人航空弁係雜件

寫送先

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調查 人事 文書 會計 秘書官

大臣 次官

電信課長

昭和12 三四二七 暗 倫敦 廿五日後發 歐  
 本省 二月廿六日前着

林外務大臣  
 第九七號

往電第九六號ニ關シ(訪英飛行ノ件)  
 二十四日附外相代理書翰中要點別電第九八號ノ通り申越シタリ(了)

外務省

電信課長	管主	主任	昭和十一年二月二十四日起算
	局長	主任	
電信課長	主任	在英	昭和一十一年二月二十四日起算
主任	吉田大使	林大臣	
暗	電送第 2722 號	朝日新聞奉祝飛行ノ件	發
略	昭和 12. 2. 24 日	飛行ノ件	名件録記
第 六六 號			
電信案	往電示五三二號ニ關シ	南緯國ニ續キ關係止至々志英國	側ノ意思(向)洋確ノ回電アリタリ

外務省

F-0354

0017

寫送先

次大臣

電信課長

祕書官 會文人調文情條通米歐東 計書事查化報約商洲亞亞

3432 Ryaku.

London, Feb. 25th p.m.

Received, Feb. 26th a.m., 1937.

Gaimudaijin, Tokio.

No. 98 (Betsuden)

Your Excellency will appreciate that when official ceremonies attended by large body of foreign representatives are in question grave complications are to be apprehended from interposition of any unofficial element. It is to be feared moreover that if permission were given to one newspaper to send aeroplane, incalculable number of others would wish also to send machines and thus would manifestly be unthinkable.

Although I warmly appreciate the motives which prompted this enquiry I fear that I have no other course open to me than to request that proposed flight should be abandoned.

Yoshida

歐

外務省

26 32

電 信 案	日 迄 二 貴 地 着 一 豫 定 ナ ル ニ 付 英	朝 日 機 、 四 月 一 日 頃 出 発 、 一 月 四 月 十	貴 電 一 九 三 七 年 二 月 二 日	暗 電 送 第 2967 號	管 主 電 信 課 長
				昭和十二年二月五日起草	
外 務 省	第 六 八 號	件 宛	在 英 吉 田 大 使	朝 日 亞 改 聯 絡 機 行 一 件	林 大 臣
		名 件 錄 記	發		

電  
信  
案

外  
務  
省

国側ニ迷惑ヲ及ササル様に到るまで先  
 方ノ都合ニ依リ何時ニテモ引上げシヤル  
 事トシ  
~~再行~~ 亞細亞船行トシテ  
 英國側ノ了解ヲ取付ク  
 ル様再后御交渉相成度

F-0354

0019

第二課長

拜啓 時下益々御清祥之段奉賀候

二月二十七日

七

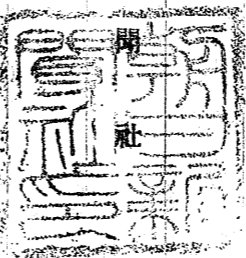
歐亞局長

陳者今回本社に於て別紙の通り英國皇帝戴冠式奉祝を兼ね亞歐連絡記録飛行を執行致  
す事に相成候に付ては途中航空路に當る帝國在外公館の御援助を賜度候段本省より當  
該公館に對し何分の御指示方御高配相煩度此段願上候

昭和十二年二月二十七日

敬具

朝日新



手  
英子他が洋行も  
下りるも  
手紙も

外務大臣 林 銑十郎 閣下

東京朝日新聞發行所

出歐連絡記録飛行計畫大要

一 航空ノ期日

昭和十二年 自四月一日  
至五月三十一日

イ。往航 四月上旬出發ノ豫定

ロ。復航 右期間中ニ歸還ノ豫定

二 使用飛行機

機名 三菱式雁型「神風」號

機體 低翼單葉

三 乗員

一等飛行機操縦士二等航空士

飯沼 正明 (二六)

航空機機師士兼無線通信士

塚越 賢爾 (三八)

四 航空路

東京朝日新聞發行所

往路

東京—台北 (三三三〇K・M) —ハノイ (二、七八〇K・M) —カルカッタ

(一、七九〇K・M) —カラチ (二、二〇〇K・M) —バストラ (三、〇〇〇

K・M) —バグダッド (四、五〇〇K・M) —アゼンス (一、九五〇K・M)

—ローマ (一、〇三〇K・M) —パリ (九、二〇〇K・M) —ロンドン (三、五七

K・M)

復路 往路ノ逆順

但シロンドン着後ベルリン、ブラツセル、パリ、ローマ等西歐諸國首

都訪問飛行ヲ實施ノ豫定

尙左記ニハ都合ニヨリ着陸スルコトアリ

アラハバツド、ジヨドプール、ジャスク、プシール、ダマスカス、マ

ルセーユ

寫送先

大臣 次官 電信課長 東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調查 人事 文書 會計 祕書官

昭和12 四一四八 暗

倫敦 五日發 本省 三月六日前着

歐

佐藤外務大臣

吉田大使

第一一六號

貴電第七八號ニ關シ(朝日亞歐聯絡飛行ノ件)

當方ニテモ再三督促中ノ次第ナル處目下外務省ヨリ印度、植民、航空各省ニ協議中ニテ是等關係省ノ回答ナキ爲遲延スルカ如シ尤モ貴電第六八號接到申入ノ際極東部長ハ本件飛來ニ付英側ノ Official attention ヲ要セサルヤヲ懸念シ居リタルニ付館員ヨリ此ノ點ハ何等懸念ナキ旨答ヘタル處同部長ハ然リトセハ事ハ simplify セラルヘシト語リタル趣ナリ右一應(脱?)迄(了)

外務省

特使

空監第七一七號

昭和十二年三月五日

遞信省

外務次官殿

遞信次



亞歐連絡飛行ニ關スル件

客月九日附空監第五九八號右件ニ關シ朝日新聞社ヨリ更ニ別紙寫ノ通願出有之候條可然御取計相煩度及御依頼候



(分送門外目)

本邦人航空連絡案件



昭和十二年三月二日

東京市麴町區有樂町貳丁目參番地

東京朝日新聞社航空部長

河 内 一 彦

遞信大臣 兒 玉 秀 雄 殿

亞歐連絡飛行離着陸場追加許可御願

昭和十二年一月二十日ヲ以テ許可方申請中ノ弊社亞歐連絡飛行ノ航空路ニ關シ、佛國  
航空専門家ノ懇切ナル注意ニヨリ種々研究ノ結果既願ノハノイーカルカッタ間直線航  
空路ノ外、狀況ニ應ジ左記航空路ヲ飛行致度候間御許可相成度此段奉願上候

左 記

東京朝日新聞發行所

ハノイーアキヤブーカルカッタ。

但シ都合ニヨリアキヤブニ着陸スルコトアリ

備 考

本航空路ハシヤム國境地方ヲ通過ス

(以 上)





昭和十二年三月二日

東京市麹町區有樂町貳丁目參番地

東京朝日新聞社航空部長

河内 一彦

遞信大臣 兒玉秀雄 殿

亞歐連絡飛行「神風」號ニ無線搭載ノ件

弊社亞歐連絡飛行ノ三菱式雁型神風號ニ左ノ如ク無線機搭載致候間通過地關係諸國ニ御通知賜度此段御奉申上候

左記

一呼出符號 J I B A A I

東京朝日新聞發行所

ニアンテナ出力 ニ〇ワット

三電波型式 A I A 2

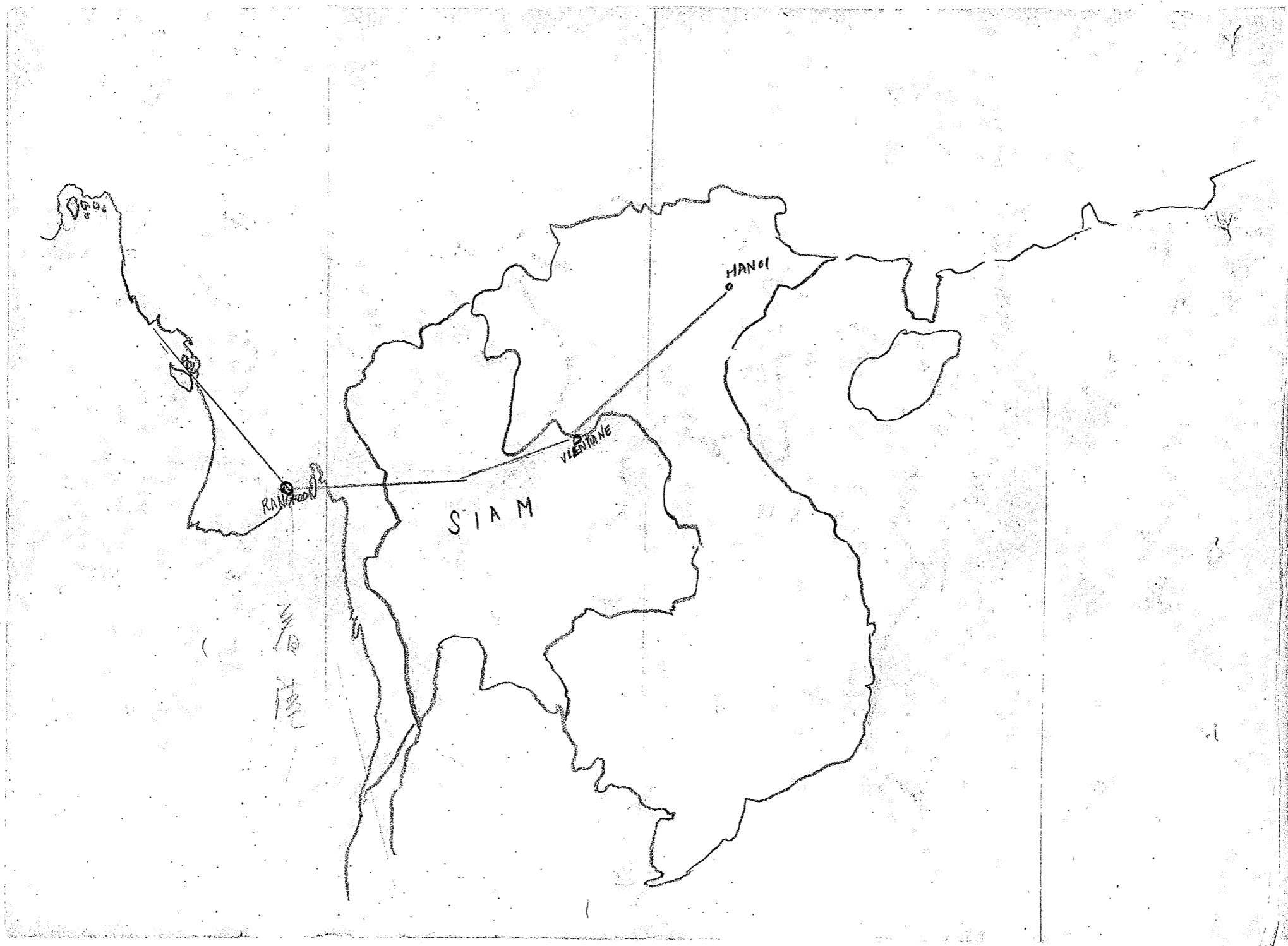
四波 長

送 信 五六六〇k〇 (短波)  
六五九〇k〇

受 信 六〇〇k〇—二八〇k〇 (中波)  
二〇〇〇k〇—二五〇〇k〇 (短波)

但シ受信ハ主トシテ三三三k〇ヲ用フ

(以上)



F-0354

0025

東亞局  
第一課長  
第三課長  
情報部  
第一課長

電 信 案	類	電送第 3372 號	管主 歐亞局長
	昭和十二年三月九日午後四時十分發	宛 在「カルク」 米澤 總領事	任主 第二課長
外 務 省	係國ノ許可取付並ニ便宜供與依頼方願出アリタルニ付委細左記ニ依	朝日新聞亞歐聯絡飛行ノ件	昭和十二年二月廿八日起草
	今般朝日新聞社ヨリ東京倫敦間往復亞歐聯絡飛行ヲ行フ計畫ニテ關	發 佐藤 外務大臣	名件録記

電信課長

發電係

9 12

電 信 案	類	電送第 3242 號	管主 歐亞局長
	昭和十二年三月五日午後五時五分發	宛 在英 吉田 大使	任主
外 務 省	往電示六八号ニ關シ	朝日亞歐聯絡 飛行ノ件	昭和十二年三月五日起草
	何分儀至急回電アリタシ	發 佐藤 大臣	名件録記

電信課長

任主

5 27

昭和十二年三月五日起草

電 信 案	四 乗員二名 一等飛行機操縦士二等航空士飯沼正明	三 使用飛行機 カガネ 雁三菱式型中島式空冷五五〇馬力 壹機	二 迄ノ間	一 期日 本年四月一日出發ノ豫定・期間四月一日ヨリ五月三十一日	一 目的 亞歐聯絡飛行	オ リ タ シ ト	回電アリタシト付テハ英ヨリ在英一ノ國公使へ申入
-------------	--------------------------	--------------------------------	-------	---------------------------------	-------------	-----------------------	-------------------------

(原議用紙乙)

(分類)

電 信 案	合 第 號	暗	電送第	號	主管
		昭和	年 月 日	時 分	發
		第	件 名	宛	主任
		號	記録件名	發	昭和 年 月 日 起草

(日本標準規格B5)

F-0354

0027

電 信 案	東京―台北―香港―河内―カルカッタ―カラチ―バスター―バグダ	テ豫定航空路	但シ受信ハ主トシテ三三三K Cヲ用フ	二〇、〇〇〇K C―二、五〇〇K C (短波)	六〇〇K C―二八〇K C (中波)	六、五九〇K C (短波)	五、六六〇K C	送信
-------------	--------------------------------	--------	--------------------	-------------------------	--------------------	---------------	----------	----

(原議用紙乙)

電 信 案	航空機機關士無線通信士 塚越賢爾	航空機國籍 日本 (標識及堪航證明書決定次第通報ス)	携帶品 無線電信機	呼出符號 J-B.A.A.I.	アンテナ出力 二〇ワット	電波型式 A.I.A.2	波長	電 信 案
-------------	---------------------	----------------------------	-----------	-----------------	--------------	--------------	----	-------------

(原議用紙乙)

F-0354

0028

電信案

本信先 在英本領、在「カルカッタ」總領事

英ヨリ本大臣訓令トシテ佛・伊・希・土へ轉電シ其ヨリ參考トシテ「ボイルート」へ郵送アリタシ

~~「カルカッタ」ヨリ~~ 本大臣訓令トシテ暹羅・「イラン」へ轉電シ參考トシテ香港・河内ニ轉電アリタシ

夏ハ郵送アリタシ

外務省

(原議用紙乙)

電信案

ハ不時着陸豫定地

アキヤブ、<sup>(ビルマ)</sup>マンダレー、アラハバッド、ジョドブル(以上英印)

ジャスク(イラン)、ダマスク(シリア)、マルセーユ

ハ復路ノ往路ト同シ

依ルコトアルベク此ノ場合暹羅國境地方ヲ通過ス

航空路ナルモ狀況ニ應ジ河内「アキヤブ」<sup>代</sup>「カルカッタ」<sup>代</sup>ノ航空路ニ

ツド「雅典」「羅馬」「巴里」「倫敦」(但シ河内「カルカッタ」間ハ直線

ハ不時着陸豫定地

外務省

(原議用紙乙)

果至急回電アリタシ  
 (イラクニ関シテハ)  
 英ヨリ在英ニ国公使ニ申入アリタシ  
 目的 亞改聯絡(往復)飛行  
 期日 四月一日頃出外ノ豫定  
 携帶品 無線電信機  
 (1) 呼出付号 J-B.A.A.I.  
 (2) アンテナ出力 ニ。ワット

(原議用紙乙)

電信案 外務省

電信案	暗送第 3366 號	管主 歐亞局長
	昭和 12. 3. 19 日 午後 2 時 40 分發	主任 佐藤 大臣
外務省	件 宛	在英 吉田 大使
	件 宛	朝日亞改飛行
外務省	第 八 號	發 佐藤 大臣
	名件録記	

往電亦五云号ニ関シ  
 左記ノ真修正追加ノ上貴任内政府  
 ハ御申入相成時日切迫ニ居ルニ付結

電信課長

主任

昭和十二年三月八日起草

9 11

F-0354

0030

(原議用紙乙)

(1) 電波型式 A.I.A.2.

(2) 波長

送信 五. 五. 〇. K C (短波)

五. 五. 九. 〇. K C (短波)

受信受信

五. 〇. 〇. K C - ニハ. 〇. K C (中波)

ニ〇. 〇. 〇. K C - ニ五. 〇. 〇. K C (短波)

電 信 案

外 務 省

(原議用紙乙)

但し受信ハ主トシテ三三ニK Cヲ用ス

豫定航路 | 河内カルカッタ由

ハ直線航路ナルモ状況ニ依リ河

内トアキヤブトカルカッタノ航路ニ依

ルスタートレク此ノ場合暹羅國境地ニカ

ラ通ル

不時着陸豫定地ニアキヤブ(ビルマ)ヲ

電 信 案

外 務 省



寫送先

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調查 文人 會計 會社 秘書官

大臣 次官

電信課長

昭和12 四五〇四 略 ニューデリー 十日午後發 歐  
 本 省 三月十日夜着

佐藤外務大臣  
 第一四三號  
 (朝日新聞亞歐聯絡飛行ノ件)  
 貴電第四七號未接到ノ處至急御電報ヲ請フ

本邦人航空飛便雜件

米澤總領事

外務省

電信案

外務省

加フ

冒頭往電末尾折削内ヲ削除ス

冒頭往電ト共ニ本大臣訓令トシテ

佛伊土希臘へ轉電シ土ヨリ

送考ホシテ「バイルート」へ郵送アリタシ

(原議用紙乙)

F-0354

0032

寫送先

祕書官 會計書 文書 人查 調事 文化 情報 條約 通商 米洲 歐亞 東亞

次大臣

電信課長

(分類部門/額/綴/日)

昭和12 四六四三 暗 倫敦 十一日後發 歐  
 本省 三月十二日前着

佐藤外務大臣  
 第一四〇號(至急)  
 貴電第八一號ニ關シ

十一日外務省係官ヨリ本件飛行ニ異存ナシ但シ「ルート」ニ付多少ノ修正ヲ加ヘ度キ旨不取敢電話越シタリ書面到着次第追電ス  
 冒頭貴電ノ通り轉電セリ

外務省

寫送先

祕書官 會計書 文書 人查 調事 文化 情報 條約 通商 米洲 歐亞 東亞

次大臣

電信課長

(分類部門/額/綴/日)

昭和12 四六三四 略 イスタンプル 十一日後發 歐  
 本省 三月十二日前着

佐藤外務大臣  
 第二一號

在英大使宛貴電第五六號及第八一號ニ關シ  
 當國內航空經路至急御回電ヲ請フ(了)

外務省

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

寫送先

東亞 歐米 通商 條約 情報 文書 調查 事務 會社 秘書 官

大臣 次官

電信課長

昭和12 四七〇二 略 倫敦 十二日後發 本省 三月十三日前着 歐

佐藤外務大臣 吉田大使

第一四二號

朝日機飛行ニ關シ

十二日英外務省來翰要點左ノ通り

British Government see no objection to proposed despatch by Asahi of aeroplane on goodwill flight to this country.

British Government have noted that route intended to be followed appears to involve direct flight from Haiphong to Calcutta (with possible landing at Mandalay) via Shanstates. As this is not established international

外務省

電信課長	電送第 3506 號	管主
	昭和 12. 3. 11 日 發	歐亞局長
件	宛	任主
轉電一件	在ニエーテリ	3
第 四九 號	米沢總領事	11 05
貴電亦一四三號ニ關シ	發	昭和 十一年 三月 十一日 起草
カルカッタヨリ轉電センメラレタリ	佐藤 大臣	
電信案	名件録記	
外務省		

F-0354

0034

air-route it is however unfortunately not possible for permission to be granted for flight by this route. There is however no reason to suppose that Government of India will raise objection to intended flight across India provided it follows recognised route via French Indo-China, Siam and Rangoon.

佛、伊、土、希へ暗送セリ

外務省

歐亞局

第二課長

別紙添附

普通第一四一號

昭和十二年四月壹日 接受

昭和十二年三月十二日

在英

特命全權大使 吉田



外務大臣 佐藤 尚武 殿

朝日新聞社歐亞連絡航空ニ關スル件

本件ニ關シ英國政府回答ノ次第ハ既ニ電報報告ノ通ナルカ三月十一日附外務省來翰寫別添爲念送付ス

(外務省門類別目子)

F-0354

0035

Copy.

No.F 1443/1023/23.

FOREIGN OFFICE, S.W. 1.

12th March, 1937.

Your Excellency,

In reply to your notes No.62 of the 27th February and No.77 of the 10th March, I have the honour to inform Your Excellency that subject to the observations contained in the following paragraph of this note, His Majesty's Government see no objection to the proposed despatch by the Asahi Shimbun-sha of an aeroplane on a good will flight to this country.

2. His Majesty's Government have noted that the route intended to be following appears to involve direct flight from Haiphong to Calcutta, (with a possible landing at Mandalay), via the Shan States. As this is not an established international air route it is however, unfortunately not possible for permission to be granted for flight by this route. There is, however, no reason to suppose that the Government of India will raise objection to the intended flight across India provided it follows the recognised route via French Indo-China, Siam and Rangoon.

I have the honour to be, with the highest consideration,

Your Excellency's obedient Servant,

(For the Secretary of State)

(Sgd) C.W. ORDE

His Excellency Mr. Shigeru Yoshida, K.C.V.O.,  
etc., etc., etc.

F-0354

0036

電信案

外務省

ヲ  
通  
照  
ス

(原議用紙乙)

第一  
部



電信案

外務省

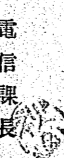
ヲ  
直  
線  
、  
定  
期  
航  
空  
路  
ニ  
テ  
ハ  
土  
耳  
古  
領  
事

ヲ  
ハ  
カ  
カ  
ツ  
ト  
レ  
ヨ  
リ  
マ  
カ  
ス  
ク  
シ  
テ  
経  
テ  
雅  
典  
へ  
向

貴電方ニ一号ニ自シ

電送第	3591	號	主 管
昭和	12.3.12	日 時 6時 10分	航空局長
件	朝日航空路	宛	在土 武官 大使
第二一號	件	發	佐藤 大臣
名件録記			

電信課長  
主任 菅野  
昭和十二年三月十一日起草



12 41



F-0354

0037

電 信 案

外 務 省

領空ヲ通過スル定期航空路(一)カナル  
カフタ

英ヨリ佛ニ轉電アリタシ

ニューテリヨリ日進(四)推 河内ニ轉電シ南  
工夏ハ郵送アリタシ

電 信 案	外 務 省	電送第 3985 3986 號	管 主
		昭和 12. 3. 15 日 午後 4 時 13 分 發	航空局長
河内 - 蘭 (一) 日進 (四) 推	朝日機 河内 - カルカフタ 間ハ 左ノ如ク 航 路 変更セラルタリ	件	宛
		朝日機 航空路	在英 吉田大使 在ニューテリヨリ 米沢總領事
合 第 一 〇 五 二 號		名 件 録 記	發
			佐々藤 大使

電信課長


任主

15 19

昭和十二年三月十五日 起草

F-0354

0038

電信課長 

大臣 次官

東亞 歐洲 米商 條約 情報 調查 人事 文書 會計 秘書官

昭和12 四八七八 略 新京 十六日後發  
本省 三月十六日後着 亞

佐藤外務大臣


第一八七號 (至急)

貴電第一三三號ニ關シ (東日ノ日滿通信連絡飛行ノ件)  
許可取付済 (了)

植田大使

外務省

本邦人航空連絡件

電信課長 

大臣 次官

東亞 歐洲 米商 條約 情報 調查 人事 文書 會計 秘書官

昭和12 四九一六 暗 雅典 十六日後發  
本省 三月十七日前着 歐

佐藤外務大臣

第二號

英宛貴電第八一號ニ關シ (朝日歐亞聯絡飛行ノ件)  
異議ナシ (了)

渡邊代理公使

外務省

本邦人航空連絡件

F-0354

0039



電信課長

大臣

次官

東亞 歐亞 米洲 條約 情報 調查 人事 文書 會計 秘書官

寫送先

昭和12 五〇二七

暗 ニューデリー 本 省 三月十八日後着

歐

佐藤外務大臣

米澤總領事

第一五二號

貴電第四七〇號ニ關シ（朝日亞歐聯絡飛行ノ件）

印度政府ハ十七日附許可シ越シタリ

暹、「イラン」へ轉電セリ

記録件名本邦人航空記録雜件

外務省

電信課長

大臣

次官

東亞 歐亞 米洲 條約 情報 調查 人事 文書 會計 秘書官

寫送先

昭和12 五一三三

略 ニューデリー 本 省 三月二十日前着

歐

佐藤外務大臣

米澤總領事

第一五三號

貴電第四七號ニ關シ（朝日新聞亞歐聯絡飛行ノ件）

本十九日印度政府ヨリ更ニ左ノ通り申越セリ

一、該飛行機ノ標識ヲ至急通知セラレ度キコト

二、「マンドレー」ニハ着陸場ナク且蘭貢、「アキヤブ」經由ノ通常

航空路ニ依ラルヘキコト

三、無電通信機ニ關シテハ印度、緬甸飛行中ノ使用ニ對シテハ通信士

ニ於テ「ライセンス」ヲ受クルコトヲ要スルコト

記録件名本邦人航空記録雜件

外務省

寫送先

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調查 人事 文書 會計 會社 秘書官

次官 大臣

電信課長

頭石門ノ機ノ項0第3

四寫真機及武器携帶ニ付テハ特別ノ許可ヲ要スルコト(了)

外務省

昭和12 五一九二 暗 雅典 本省 三月二十日夜着 歐

佐藤外務大臣 渡邊代理公使

第四號

往電第二號ニ關シ(朝日歐亞聯絡飛行ノ件)

爲念禁止區域甲谷陀迄空送ス(了)

外務省

F-0354

0041

寫  
送  
先

大臣  
次官

東亞  
歐洲  
通商  
條約  
情報  
調查  
人事  
文書  
會計  
秘書官

電信課長

昭和12年三月廿二日

昭和12 五二八三 暗  
河内 三月廿二日夜着  
佐藤外務大臣  
第一七號

宗村總領事

歐

甲谷陀轉電貴電第四七號ニ關シ

帝國政府カ佛本國外務省ノ承認取付タル以上朝日機ノ印支上空飛行ヲ許可スル旨二十二日附ヲ以テ總督ヨリ通知アリタリ（了）

外務省

大臣  
次官

東亞  
歐洲  
通商  
條約  
情報  
調查  
人事  
文書  
會計  
秘書官

電信課長

昭和12年三月廿二日

昭和12 五二七九 暗  
盤谷 三月廿二日夜着  
佐藤外務大臣  
第五三號

石射公使

歐

（朝日亞歐聯絡飛行ノ件）

貴大臣發甲谷陀宛電報第四七號及合第一六二號ニ關シ

暹羅政府ヨリ二十二日附ヲ以テ往復トモ領土上飛行差支ナキ旨申越セリ

甲谷陀、河内へ轉電シ蘭貢へ暗送セリ

外務省

F-0354

0042

送付  
目録  
送付  
送付  
送付

大臣 次官  
電信課  
東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 文書 會計 會社 秘書官

昭和12 五三〇八 暗 倫敦 廿二日後發 本省 三月廿三日前着 歐  
佐藤外務大臣  
第一六九號  
貴電第八一號ニ關シ(朝日亞歐飛行ノ件)  
二十二日「イライク」公使館ヨリ本件飛行ニ異議ナキ旨申越セリ  
吉田大使  
(了)

外務省

條約局

公第四四号

昭和十一年三月五日

在希

臨時代理公使 渡辺信

外務大臣 佐藤尚武殿

希臘國航空禁止區域ニ關スル件

朝日新聞訪英飛行機ノ當國領域通過及着陸  
許可ニ關聯シ過日當國政府ハ雅典附近及北部地  
方ニ於ケル航空禁止區域説明書並圖解ヲ送  
付シ越セルヲ以テ右ハ一括在「カルカッタ」帝國總領事  
館及付同飛行機操縦者ニ空送シ置ケルカ内北部

在希臘日本公使館

記録付本邦人航空關係雜件  
昭和三十四年四月拾四日接受

別紙添付



條 4.15

F-0354

0043

電信課  
大臣  
次官  
東亞  
歐亞  
米洲  
通商  
條約  
情報  
文書  
調查  
人事  
文書  
會計  
秘書官

昭和12 五三〇八 暗 倫敦 三月廿三日 後發 廿二日 前着 本省 吉田大使 歐

佐藤外務大臣  
第一六九號  
貴電第八一號ニ關シ(朝日亞歐飛行ノ件)  
二十二日「イライク」公使館ヨリ本件飛行ニ異議ナキ旨申越セリ

(了)

外務省

本信照合票挿入先

門類	項目	號
F	10	09

條約局 第... 昭和三十二年三月五日 在希 臨時代理公使 渡辺信 外務大臣 佐藤尚武殿

希國航空禁止區域ニ關スル件  
朝日新聞訪英飛行機、當國領域通過及着陸  
聯シ過日當國政府ハ雅典附近及北部地  
航空禁止區域説明書並圖解ヲ送  
以テ右ハ一括在「カルカッタ」帝國總領事  
館交付同飛行機操縦者ニ空送シ置ケルカ内北部

在希臘日本公使館

F-0354

0044

1.10.49

地方ニ於テ航空禁止區域ニ付テ客年六月十九日附  
公第六七号) 往信ヲ以テ報告申進置キタルモ雅典  
附近ノ禁止區域ニ付テモ既ニ報告済カト被存ルモ爲  
念 右説明書寫一部御参考迄ニ茲ニ送付ス。

在希臘日本公使館

F-0354

0045

ZONE INTERDITE D'ATHENES.

1. Limites de la zone interdite:

La ligne commençant à MEGARA (37°59' Lat. N.-23°21' Long. E. de Greenwich) et se dirigeant en ligne droite au village d'AFIDNE (38°12' Lat. N.-23°50' Long. E. Greenwich), de là au sommet du mont PENTELIKON, de là à un point au Sud de SOUNION (37°38' Lat. N.-24°02' Long. E. de Greenwich), de là au cap ZOURVA (île d'Idra), de là suivant le parallèle 37°21' N. qui traverse ce dernier jusqu'à sa rencontre avec le méridien de MEGARA (23°21' Long. E. de Greenwich) et de là en suivant ce même méridien jusqu'à MEGARA.

2. Passages de la zone interdite:

Dans la zone interdite, le vol des avions est permis à une altitude ne dépassant pas les 300 m au-dessus du sol; à l'intérieur des passages aux limites indiquées ci-après:

a) Passage du SUD :

Entre la ligne droite partant du cap ZOURVA (extrémité E. de l'île d'Idra) et passant à 5 km. à l'E. du cap TOURLOS (extrémité NE. de l'île d'Egina) et la ligne droite passant à 5 km à l'W de l'extrémité W. de l'îlot PATROKLOS (Gaïdaros), à 5 km au SW. de l'îlot FLEVES et suivant ensuite le méridien qui passe à 5 km. à l'W. de cette même île (23°43' E. de Greenwich).

b) Passage de l'West :

Entre une ligne imaginaire droite passant à 5 km au N. de l'extrémité NE. de l'île d'EGINA (cap TOURLOS) et de l'extrémité N. de l'îlot FLEVES et une seconde ligne se dirigeant du sommet du mont PENTELIKON à l'extrémité SW. de la côte de la baie de FALIRON (37°55' Lat. N.-23°38' Long. E. de Greenwich), de là à un point situé à 2 km au S. du cap KONCHI (île de Salamis) et de là en suivant le parallèle de ce dernier point (37°51',5 Lat. N.).

- 2 -

3. Zones de survol temporaire:

Jusqu'à l'établissement du nouvel aéroport d'ATHENES, les vols -à une altitude ne dépassant pas les 300 m au-dessus du sol- seront permis également à l'intérieur des limites indiquées ci-après de la zone interdite :

a) Zone de survol temporaire de DEKELIA :

La limite N de la zone interdite ainsi que la ligne droite re-joignant le village d'AFIDNE au sommet du mont PENTELIKON, de là à l'extrémité SW. de la côte de la baie de FALIRON (37°55' Lat. N.-23°38' Long. E. de Greenwich) et de là, la ligne passant par le village d'AS-PROPIRGOS (38°04' Lat. N.-23°35' Long. E. de Greenwich) et aboutissant à la limite de l'extrémité N. de la zone interdite.

b) Zone de survol temporaire de NEA PERAMOS :

Les limites N. et W. de la zone interdite, la limite N. du passage WEST comme décrite au paragr. 2/b ci-dessus, ainsi que le méridien 23°27'E. de Greenwich.

Les signaux prévus à l'Annexe "D" de la Convention Internationale portant réglementation de la navigation aérienne en date du 19 Octobre 1919 devront être donnés par tout aéronef s'engageant au-dessus d'une zone interdite; les stations terrestres utiliseront, outre les signaux précités, également la T.S.F. et des lampes "Aldis".

Tout avion recevant l'ordre d'atterrir ou d'amérir, devra se hâter et atterrir ou amérir à la Base Aéronautique Militaire de DEKELIA (Aéroport de Dekelia), ou celle de FALIRON (pour hydravions; située à côté et au S. de l'aéroport civil pour hydravions de FALIRON).

電信案

外務省

三、通信士、国際電信通信條約附  
 属一般無線通信規則第十條所定  
 の政府證明書を有する處如何に  
 續つて要トスルヤ  
 四、字號機、武器、携帶せらる

電信案

外務省

一、標識 J-B.A.A.I.  
 二、往電命令一五三号ニ適用  
 中電一五三号ニ適用

電送第	4266	號	管主
昭和	12	年	3
日	22	日	午後
時	7	時	30
分		分	
件	宛	發	名件録記
朝日飛行一件	在ニエーデー 米澤總領事	佐藤大臣	
第	五	五	號

電信課長

昭和十二年三月二十二日起草

22 19

F-0354

0047



東三局  
第一課長  
東亞局  
第一課長

電送第 4264 → 4265 號  
昭和 22 年 3 月 22 日 午後 7 時 10 分發

合 第 一 七 四 號

宛  
在英吉田大使  
在暹石射公使  
朝日飛行一件

名件録記  
發  
佐藤 大臣

管主 東亞局長  
主任 佐藤 大臣  
昭和 22 年 3 月 22 日 起草

電信課長

22 18

電 信 案  
外 務 省  
朝日亞欧飛行ニ関シ左記諸国政府  
一 回答無キ處 出発期日切迫ニ付  
ニ付至急 暫徒相成度 尚 朝日機 標 識

J. B. A. A. I. 決定セリ
「イラク」 佛 (シリア、佛印ヲ含ム)、伊
土、イラン、暹、四雜
本大臣訓(ハミトニテ) 英ヨリ佛伊エニ轉電(ハミトニテ) 希ニ
暹ヨリ本大臣訓(ハミトニテ) イラン、希考
トニテ 濟内(香港) 轉電アリタシ

電 信 案

外 務 省

F-0354

0048

大臣 次官  
 電信課長  
 東亞 歐洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 文書 會計 秘書官

昭和12 五三四五 略 ニューデリー 三月廿三日後着 歐  
 佐藤外務大臣  
 第一六八號  
 貴電第五五號ニ關シ(朝日飛行ノ件)  
 無線電信機使用ニ付テハ御來示ノ政府證明書ニテ充分ナル趣ナリ  
 (了)

外務省

大臣 次官  
 電信課長  
 東亞 歐洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 文書 會計 秘書官

昭和12 五三九五 暗 イスタンブル 三月廿四日前着 歐  
 佐藤外務大臣  
 第二五號  
 貴電第二一號ニ關シ(朝日航空路ノ件)  
 要領別電ノ通り回答アリタル處右ニ關シ外務省係官ハ御來示ノ「コ  
 ース」ハ土耳其領空ヲ通過セサルヲ以テ別段航空許可ノ問題ヲ生セ  
 サルモ土耳其政府トシテハ別電ノ國內指定航空路經由ニアラサル限  
 リ土耳其領域内不時着其ノ他ノ事故ニ對シ何等其ノ責ニ任セサル旨  
 ヲ説明シタリ  
 冒(頭) 貴電及別電ト共ニ英、佛、伊、希、「ペイルト」、暹へ  
 暗送セリ

外務省

本邦人航空機傳雜件

寫送先

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 文書 會計 秘書官

英宛電合第一七四號ニ關シ

第一五二號

英宛電合第一七四號ニ關シ

一 廿四日外務省係官ハ往訪ノ館員ニ對シ本件飛行ハ本國及植民地當該官廳ニ通報濟ニテ出發差支ナキ旨回答セリ

二 其ノ節係官ハ客年往電第六四〇號同様日佛力航空條約參加國タル關係上本件飛行ニ許可ヲ必要トセサル旨ヲ繰返シ(從前ヨリ當館ニテハ航空條約トノ關係ヲ慮リ外務省宛書翰ニハ飛行許可ノ文字ヲ使用セス飛行計畫ヲ通報シ便宜供與ヲ請求スルニ止メツツアリ

外務省

大臣 次官

電信課長

昭和12 五四五二 略

巴里 三月廿四日後發 本省 三月廿五日前着

佐藤外務大臣

内山代理大使

歐

寫送先

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 文書 會計 秘書官

英宛電合第一七四號ニ關シ

5399. Ryaku.  
Istanbul, le 23 p.m. mars.  
Reçu, le 24 a.m. mars., 1937.

Gaimudaijin, Tokio.  
No. 26 (Betsuden)

Ce Département vient d'être informé que l'unique voie à suivre en Turquie par les avions se rendant de l'Europe en Asie ou vice versa est celle de: Edirne, Istanbul, Erenkoy, Sile, Kandra, Adapazari, Eskisehir, Konya, Karaman, Silifke, Adana, Payas.

L'avion "Karigane" ne peut donc suivre que la route susindiquée en se rendant de Damasa à Athènes. L'autorisation de survoler les territoires turcs ne saurait lui être accordée qu'à cette seule condition, et dans le cas où il se trouverait dans la nécessité d'atterrir sur un point quelconque de la Turquie, il serait impossible de lui porter secours, faute d'aéroport aménagé ailleurs qu'à Adana, Konya, Eskisehir et Yesilkoy.

外務省

Taketomi

大臣 次官

電信課長

寫送先

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 文人 會計 秘書官

電信課長

大臣

次官

門外ノ類ノ項0第3)

佛側飛行機ノ訪日ニ際シ日本政府カ許可ヲ要求セラレ殊ニ最近「ピ  
ロット」ノ變更ニ迄許可ヲ要求セラレタルハ航空條約ト兩立セサル  
モノト思考スルコトヲ enlolement ニ御注意致シタシト述ヘタル趣  
ナリ  
英ニ暗送セリ

外務省

本初人館英係附件

昭和12 五五二〇 略

羅馬 廿五日後發  
本省 三月廿五日夜着

歐

佐藤外務大臣

杉村大使

第五三號

朝日亞歐聯絡飛行伊太利政府側ニ異存無シ

英、佛、土、希へ暗送セリ

外務省

何レノ除キ  
全郵回答  
アリタリ

第一課長

電 信 案	何 レ ノ 除 キ 全 郵 回 答 ア リ タ リ	往 電 合 第 一 七 四 號 ニ 關 シ	電 送 第 4518 號	件	宛	管 非 歐 亞 局 長	電 信 課 長	27 22	昭 和 十 七 年 三 月 二 七 日 起 草
				朝 日 亞 航 行 一 箇 ス ル 件	在 イ ラン 淺 田 代 理 公 使				
外 務 省				名 件 録 記					

寫  
送  
先

大臣 次官  
電信課長  
東亞 歐洲 米商 條約 情報 文書 調查 文人 會計 會社 秘書官

昭 和 12 五 六 五 八 略	テ ヘ ラ ン	二 十 七 日 後 發	歐
本 省	三 月 二 十 七 日 夜 着		
佐 藤 外 務 大 臣		淺 田 代 理 公 使	
第 八 號 ( 至 急 )			
電 合 第 一 七 四 號 ニ 關 シ ( 朝 日 飛 行 ノ 件 )			
「 ジ ヤ ス ク 」 不 時 着 ノ 許 可 本 日 取 付 濟			
甲 谷 陀 へ 轉 電 セ リ			

本邦人航空乗務員

外  
務  
省

F-0354

0052

寫送先

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 文人 會社 祕書官

大臣 次官

電信課長

昭和十一年四月二日

昭和12 五八〇六 略

河内 卅日後發  
本省 三月卅日後着

佐藤外務大臣

宗村總領事

第一九號

朝日新聞へ左ノ通

河内台北無線直接交信結果良シ台北送受信正確波長直接河内無線局へ知ラセヨ又神風ノ四月一日日本出發時間當館へ通知アレ

記録付本邦人航空系係雜件

外務省

(分類)

電 信 案	朝日機、貴地着、上事情、許、場合 貴地着、上事情、許、場合 朝日機、貴地着、上事情、許、場合	電送第 5056 號	管主 歐亞局長
		昭和十一年四月二日午後五時五分發	主任 佐藤大臣
外 務 省	朝日機、貴地着、上事情、許、場合 朝日機、貴地着、上事情、許、場合	名 件 宛	在 某 吉田 大使
		名 件 録 記	發 佐藤大臣

電信課長

發電係

2 27

印

F-0354

0053

寫送先

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 文人 計畫 會社 秘書官

大臣 次官

電信課長

分類 門 / 第 項 目 3

昭和12 六三六八 平	河内 六日後發	歐
佐藤外務大臣	本省 四月六日夜着	
朝日機六日午後二時半河内著三時半發蘭真ニ向フ天候ノ都合ニヨリ	宗村總領事	
或ハ「ヴィアンテナン」ニ一泊スルヤモ知レス兩勇士トモ元氣潑刺		

本邦人航空員事件

電信案 外務省

本電ト莫ニ独白ハ轉電ニ独白西國政府  
ノ合意取付ル所致度

F-0354

0054

寫送先

大臣 次官 東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調查 人事 文書 會計 秘書官

電信課長

類門類項

昭和12 六五七五 平 雅典 八日後發 本省 四月九日前着 歐

佐藤外務大臣

第一一號

渡邊代理公使

朝日機乘組員共六時十五分無事着明九日七時頃出發ノ豫定(了)

記録簿本邦人航空係係案件

外務省

寫送先

大臣 次官 東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調查 人事 文書 會計 秘書官

電信課長

類門類項

昭和12 六四一〇 平 河内 七日前發 本省 四月七日後着 歐

佐藤外務大臣

第二二號

宗村總領事

朝日機七日午前六時二十六分「ヴィアンチアン」發甲谷陀ニ向ツタ (了)

外務省



電信案

外務省

朝日申出ノ通り取計アリタルヲ経費ハ追テ電送ス。

(原議用紙乙)

菅田ハ約ニテ月ノ  
由テ朝日ヨリ何時  
一ノ七持来スニテ概  
郵付政府都長ニテ  
ハ管部アリタリ

海野運事官了

電 信 案	同 社 ヨ リ 右 費 用 受 取 銀 額 ハ 送 付 シ テ 貴 館 ニ 送 付 ス	朝 日 ヨ リ 貴 官 ニ 依 頼 アリ タ ル 趣 ノ 趣 旨 方 ニ 於 テ	神 風 貴 地 着 ノ 際 寫 真 又 映 画 撮 影 方 ニ 関 シ	電送第 541 號	管主
				昭和 42. 4. 8 日 時 5 分 5 秒	情報部長
第 八 號	件 神風ノ寫真撮影ノ件	宛 佐藤大臣	記 本館ノ取寄ノ件	主任 第一課長	昭和 42 年 4 月 8 日起草
				宛 渡邊代理公使	8 32

F-0354

0056

希宛 8

清野理事

貴田ハ約二ヶ月ノ  
由テ朝日ヨリ何時  
ニテ持参スルニテ  
郵政政治部長  
ハ管部ヲタリ

電 信 案	第 八 號	電送第	昭和五年八月八日午後五時五分	主 管 第 一 課 長
		宛	佐藤大臣	任 主 第 一 課 長
件	神風	神風	神風	件
件	渡邊	渡邊	渡邊	件
件	代理公使	代理公使	代理公使	件
件	佐藤大臣	佐藤大臣	佐藤大臣	件
件	名件録記	名件録記	名件録記	件

電信課長

8 32

昭和五年八月八日起草

朝日申出ノ通り取計アリテハ経費ハ追テ電送ス。

(原議用紙乙)

電  
信  
案

外  
務  
省

F-0354

0057

寫送先

大臣 次官 電信課長  
東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 文書 會計 秘書官

昭和12 六五九三 平

雅典 九日前發  
本省 四月九日後着

渡邊代理公使

佐藤外務大臣

第一二號

朝日機七時半出發ス

外務省

歐亞局

普通第一一〇號

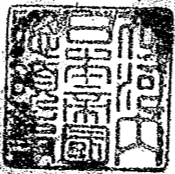
昭和十三年五月六日 接受

12.5.7

昭和十二年四月九日

在河内

總領事 宗村 丑生



外務大臣 佐藤 尚武 殿

朝日機飛來ニ關スル件

朝日機神風ハ既電ノ通り四月六日午後二時廿八分河内「ヂャーラム」飛行場着陸同三時四〇分出發同日午後五時五十二分老樾「ヴィエンチア」ニ着當夜ハ同地ニ一泊翌七日午前六時廿六分同地發「カルカツタ」ニ向ヒタルカ先見小官ハ過般本件用務ヲ帶ビ當地ニ來タリタル朝日新聞青木特派員及河内海防日本人會等ト萬事遺漏ナキ様打合セテ

在河内日本總領事館

第二編

(分限5門/2052日)

マシ又總督府方面トモ連絡ヲトリ手拔カリ無キ様凡テノ準備ヲ整ヒ置  
 キ今ハ朝日機ノ飛來ヲ待ツバカリノ段取トナシ置キタル處四月一日夜  
 半ニ河内無線局ヨリ電話アリ朝日機カ愈々一日午前二時十二分（印支  
 時間）東京ヲ出發セル旨ノ通知ヲ受ケタルニ付緊張裡ニ夜ヲ明カシ早  
 朝河内及海防日本人會ニ其旨通知ヲ發シ午前七時頃ニハ右在留民殆ト  
 全部「ヂヤールム」飛行場ニ集合シ神風號ノ到來ヲ待チタリ然ル處神  
 風號ハ午前九時乃至十時ニハ右飛行場ニ到着ノ豫定ナリシモ午前九時  
 トナリテモ何等ノ消息ニ接セス臺北ニ無線問合ハセタルモ同地ヨリ一  
 消息無シトノ返電アリシ爲メ一同ハ非常ニ不安ヲ感シ或ハ途中何カ  
 ノ異變ニ遭遇シタルニ非サヤトノ杞憂ヲサヘ抱クニ到リ一種譬ヘン方  
 ナキ氣持ニ浸サレタリ正午前同機カ天候ノ都合ニヨリ二千五百糎ヲ飛  
 翔シタル後東京ニ無事引返シタリトノ報ニ搖シヤレヤレト愁眉ヲ開キ  
 一同ハ同地ヲ解散セル次第ナリ爾來小官ハ河内無線局ト緊密ナル連絡  
 ヲ保チ東京、臺北ヨリノ無線ハ一々同局ヨリ小官ヘ電話ニテ通知シ吳  
 レタルニ付消息萬事ハ洩レナク承知スルコトヲ得タルカ六日夜半ノ電

在河内日本總領事館

話ハ朝日機カ再ビ東京出發セル旨通知シ來タリタルニ付前同様ノ手筈  
 ヲ終ヘ河海在留民一同ハ各自日佛國旗ヲ手ニシ午前九時飛行場ニ殺到  
 セリ尙朝日機カ午前九時十四分無事臺北着同十時過同地出發ノ通知ニ  
 接シタル時ハ何ト言フコトナシニ只々感激ニ打タレタリ續イテ香港、  
 廣州灣通過ノ無線入り河内着ハ後卅分トイフ時刻ニハ當地飛行關係當  
 局ハ言フニ及ハス佛國人及安南人等多數飛行場ニカケツケ居タリ  
 午後二時廿八分神風機ハ鮮カナル滑走ニテ「ヂヤールム」ニ着陸シタ  
 ル時ハ在留邦人ハ思ハス啞喉モサケン計リニ萬歳ヲ三唱セリ小官ハ河  
 海兩日本人會長及「ヂヤールム」飛行場長「ボルゼツキ」氏ト共ニ  
 同機ニ接近シ飯沼、塚越兩勇士ニ對シ心カラナル祝辭ヲ述ヘ一同ヲ紹  
 介シタル後歡迎場ニ誘導シテ在留邦人、佛國當局及物好キ半分ニ見物  
 ニ來合ハセ居タル其他ノ佛國人及安南人等ヲ知ラサルトニ拘ラ  
 ス全員招待シテ三鞭酒ノ祝杯ヲ舉ケ日本帝國及神風號ノ萬歳ヲ重ネテ  
 三唱セリ兩勇士トモ寸暇ヲ無益ニセス此間飯沼飛行士ハ前記飛行場長  
 ニ隨伴シ直チニ飛行離陸ノ工合ヲ現場ニツキ視察シ一方印支橫斷ニ關  
 スル地理ヤ天候模様等ヲ地圖ニツキ當局ヨリ説明ヲ聽取スルヤラ又塚  
 越機關士ハ寸時モ機ヲ離レス自ラ「ガソリン」ヤ油ノ補給ヲ指撥監督  
 シテ萬遺漏ナキヲ期セル等其責任感ノ旺ナナル心アルモノハ日本人ナ  
 ラテハト密カニ目頭ヲ熱クサセタリ佛國人中ニハ兩勇士ノ小官ナ  
 迄從信シタル者サヘアリタル位ナルモ兎モ角一刻ヲ争フ飛行機ハ兩

在河内日本總領事館

士ハ之ニ應スル筈モ

ナク約一時間何レモ效果的ニ起居振舞ヒタル後彼等ハ再ビ機上ノ人トナリ午后三時四〇分元氣発刺一同ノ萬歳聲裡ニ「ヴィエンチアイヌ」ニ向ヒ飛ビ去リタリ當初ハ「ラングーン」迄押切ル筈ナリシモ「ヴィエンチアイヌ」以西ハ夜間飛行トナル爲メ萬一ヲ慮リ同夜ハ「ヴィエンチアイヌ」ニ一泊スルコト、豫定ヲ變更セリ尙ホ同地ニハ五時五十二分着七日午前六時廿六分同地ヲ出發セルハ前記ノ通りナリ右飛行ニ關シテハ印度支那總督ハ本國政府ノ訓令モアリ十全ナル好意ト便宜<sup>注</sup>ヲ供與シ吳レ殊ニ河内無線局長及「ヂャーラム」飛行場長ノ寄與ハ特<sup>注</sup>ニ値セルニ付總督及此等兩氏ニ對シテハ小官ヨリ深厚ナル謝意ヲ表シ置キタリ尙ホ「ヴィエンチアイヌ」ニ於テハ老摺理事長官ノ好意ニ待ツモノ多カリシニ付同人ハ電報ヲ以テ簡單ナル禮狀ヲ發送シ置キタリ

今回朝日機ノ「レコード」大飛行ハ國家的大壯圖トシテ其發表アルヤ人モ我モ何トカシテ成功サセテ見タシトノ心テ胸カ一杯テ兩勇士ヲ當地ヘ迎ヘタル時ノ一同ノ感激ハ言フ丈ケ野暮ニシテ日本婦人中ニハ實

在河内日本總領事館

際嬉シ泣キニ泣キ居タルモノヲモ見受ケタリ殊ニ巴里東京ノ佛國飛行カ悉ク不成功ニ終リ居タル矢先丈ケニ當地佛國人ハ日本飛行何モノソ位ノ輕イ意味ニテ本飛行ヲ好奇的ニ眺メ居タルハ事實ニシテ夫レ丈ケ其成功ヲ我等一同カ神カケテ祈願シタルモ事實ナリ其成功ノ第一歩ヲ當地ニ印シタル同飛行機ハ九日ニ「ロンドン」ニ着シタル報ニ接シ而モ日本出發以來九十數時間ニテ目的地ニ到着セルヲ承知セル吾人ハ衷心ヨリ此大成功ヲ祝福シ居ル次第ナリ而同飛行機カ純日本製タル丈ケニ本成功ハ殊ニ意味深長ナルモノアルヲ感ス尙當地新聞紙殊ニ土語新聞ハ着當時ノ寫眞ヲ挿入シテ彼等ニトリテハ思ヒモヨラス日本機ノ大成功ニ驚異的記事ヲ掲記シ居レリ  
青木特派員ノ依頼ニ基キ當館ヨリ朝日紙ヘ發セル着當日ノ光景電報補足旁々此段報告申進ス

在河内日本總領事館

寫  
送  
先

東亞通條情文調人會  
秘書官 計書事查化報約商洲亞亞

次 大  
官 臣

電信課長

6642 Plain.

Manchester, Apr. 9th, p.m.

Received, Apr. 10th, a.m. 1937.

Foreign Office, Tokio.

Respectful congratulations splendid achievement,  
Divine Wind.

Peer Groves, Consulate Manchester.

外  
務  
省

歐

寫  
送  
先

東亞通條情文調人會  
秘書官 計書事查化報約商洲亞亞

次 大  
官 臣

電信課長

6740. Plain.

Paris, le 10 avril a.m.

Reçu, le 10 avril p.m. 1937.

Son Excellence, Sato, Gaimusho, Tokio.

Ailes vent divin unissent coeurs français aux  
coeurs japonais dans commune admiration pour magnifi-  
que exploit <sup>Shinoma</sup> Ihinoma Tsukakoshi.  
<sub>後記 地誌</sub>

Société franco-japonaise se joint à moi pour  
vous dire chaudes félicitations.

Honnorrat

外  
務  
省

祕

記録  
本邦人航空系係雜件

F-0354

0061

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp

電信課長

大臣

次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調查 人事 文書 會計 會社 秘書官

寫送先

昭和12 六七二六 略

倫敦 十日發 本省 四月十一日前着

佐藤外務大臣

第二〇〇號

吉田大使

本邦出發以來朝日機ハ當國民一般ノ注意ヲ惹キツツアリシ處八日「デリー・エクスプレス」カ大見出ノ下ニ其ノ「カラチ」到着ヲ報シ同日夕刊亦之ニ言及セル頃ヨリ一般ノ興味ト期待ハ俄然高マリ街頭ノ新聞賣子ノ「ピラ」モ同機ノコトヲ掲ケ在留同胞ノミナラス多數英人ヲシテ其ノ到着ヲ待望セシメツツアリタリ同機到着ノ九日「クロイドン」飛行場ニ集ル者無慮六千、機ハ多數觀衆熱狂裡ニ鮮カナル着陸振ヲ見セタリ飛行場ニハ空軍次官「サツスー

外務省

ン」ヨリノ歡迎ノ辭ヲ空軍省民間飛行局長代理之ヲ述ヘ本使モ飛行場接續ノ「ホテル」ニ於ケル非公式「レセプション」ニ於テ一場ノ挨拶ヲ爲シ飯沼、塚越答辭ヲ述ヘタルカ其ノ間一般觀衆及新聞關係者ノ熱狂振及熱心サハ殆ント涙クマシキモノアリ右兩名モ長途ノ疲勞ニ拘ラス終始微笑ヲ以テ應待シ頗ル好感ヲ與ヘタリト認ム

二十日朝刊紙ハ右飛行ニ關スル記事ニ多大ノ紙面ヲ割クト共ニ舉ツテ社説ヲ掲ケタルカ一般ニ今次飛行ハ日本人カ飛行ニ適セストノ從來ノ風評ヲ一掃シ且日本ノ技術ノ優秀性ヲ立證スルモノナリトスルト共ニ本飛行カ「グッドウィル」飛行ナル點ヲ多トスルニ一致セルカ右ノ外「タイムス」ハ十二日御着英ノ秩父宮殿下ハ英國

外務省

民カ從來ニモ増シ日本ヲ尊敬スルコトヲ御看取相成ルヘシトセリ  
尙「ロードセンビル」ハ飛行場ニ於テ何かト熱心ニ幹旋奔走シ吳  
レタルカ他方「クロト」F・B・I「リヴァプール」市長「ニュ  
ージランド」藏相「ナツシ」在英米大使、航空諸團體等ヨリ祝電  
ヲ寄セタリ

佛、伊、希へ暗送セリ

外務省

歐亞廳

普通第一一三號

別紙添付

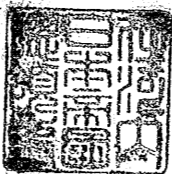
昭和三年五月六日

2.5.7.

昭和十二年四月十三日

在河内

總領事 宗村丑生



外務大臣 佐藤 尚武 殿

神風機成功ニ對スル祝狀ノ件

神風機當地出發ニ關シテハ河内無線局長等ハ殊ノ外便宜ヲ供與シ吳レ  
(普通第一一三號)タルカ同機カ無事「ロンドン」着ノ報ニ接スルヤ  
右局長ハ先ツ電話ヲ以テ小官宛右成功ヲ衷心ヨリ祝スル旨通知シ來リ  
尙別紙寫ノ通り書面ヲ以テ同様申込ミ來リタリ  
右朝日新聞へ御轉報相煩様致度此段申進ス

第二課

在河内日本總領事館



RADIO N°1

COPIE

Hanoi le 10 Avril 1937

Gouvernement Général  
de  
l'Indochine

Service  
Radioélectrique

N° 737/B

Le Chef du Service Radioélectrique  
de l'Indochine  
à Monsieur le Consul Général du Japon  
76 Boulevard Carnot

Hanoi

Monsieur le Consul Général,

J'ai l'honneur de vous adresser mes vives félicitations pour le beau raid de l'avion Kami-Kazé. Je vous serais reconnaissant de bien vouloir les transmettre également au Journal Asahi Shimbun (en lui disant combien j'ai été sensible au télégramme de remerciements qu'il a bien voulu m'adresser) ainsi qu'aux deux aviateurs.

Comme il était naturel, le Service Météorologique et le Service Radioélectrique de l'Indochine se sont efforcés de leur mieux de bien renseigner l'avion pour lui faciliter la première partie, particulièrement difficile, de son raid.

J'admire comme il convient le beau succès de l'avion Kami-Kazé et de M.M. Masaki IINUMA et Kenji TSUTAGOSHI et je vous prie de trouver ci-joint un tableau résumant les grandes lignes de leur raid.

Veuillez agréer, Monsieur le Consul Général, l'assurance de ma considération la plus distinguée ./.

signé : GALLIN .

SERVICE RADIOELECTRIQUE  
DE L' INDOCHINE

COPIE

RAID DE L'AVION KAMIKAZE

Tokyo-Londres en 94<sup>h</sup>14

		Temps moyen Greenwich	Durée
Tokyo	Départ	5 Avril 17 <sup>h</sup> 12	17 <sup>h</sup> 40
Vientiane	Arrivée	6 Avril 10 <sup>h</sup> 52	
Arrêt à Vientiane			12 <sup>h</sup> 34
Vientiane	Départ	6 Avril 23 <sup>h</sup> 26	14 <sup>h</sup> 24
Karachi	Arrivée	7 Avril 11 <sup>h</sup> 50	
Arrêt à Karachi			10 <sup>h</sup> 19
Karachi	Départ	8 Avril 00 <sup>h</sup> 09	18 <sup>h</sup> 11
Athènes	Arrivée	- 18 <sup>h</sup> 20	
Arrêt à Athènes			11 <sup>h</sup> 20
Athènes	Départ	9 Avril 5 <sup>h</sup> 40	19 <sup>h</sup> 46
Londres	Arrivée	9 Avril 15 <sup>h</sup> 26	
Total .....			94 <sup>h</sup> 14

HANOI, Le 10 Avril 1937  
LE CHEF DU SERVICE RADIOELECTRIQUE  
de l'INDOCHINE

Signé : GALLIN .

F-0354

0064

(キ)

海報

第一編

昭和七年五月八日

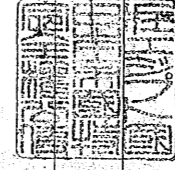
接受

普通第一五五號

昭和十二年四月十三日

在埃及

臨時代理公使天城篤治



外務大臣佐藤尚武殿

在埃及王城公使 手信

神風訪英飛行及

Japan Today and Tomorrow

ニ関聯スル新聞論説報告ノ件

神風ノ訪英飛行ニ関シ當地発行「アラビア」誌新

聞「モカタム」が掲ゲタル論説(主筆署名ス)ノ要

旨ハ曩ニ電報セルが右佛訳文(當館作成)ハ別

紙ノ通りナリ。尚同論説中ニハ大阪毎日新聞社

在エジプト日本公使館

F. 11. 0. 3

郵  
送  
附  
送

発行ノ Japan Today and Tomorrow ニ付貴  
誌ノ譯ヲ掲ゲタリ  
右報告ス。

在エジプト日本公使館

F-0354

0065

Al Mokatom du 11 avril 1937.

CES JAPONAIS

Le Japon tient toujours à rivaliser les plus grandes puissances en tout ce qui constitue la gloire des peuples et élève leur rang. Il ne cesse de faire face au monde par des travaux, des projets et des mouvements qui ne font que prouver ce vif désir de ses hommes et femmes qui avancent avec un pas ferme vers le progrès, la force, l'activité, la perfection dans les sciences et les arts, l'élévation du niveau des industries et la dispositions pour la défense de la Patrie, bien que tout ceci exige un grand effort à déployer, une présence d'esprit, une collaboration et une union.

Si le Japon a été éprouvé durant ces derniers temps par une division et par des discordes locales dont la description a été faite à l'étranger avec une grande exagération de la part de certains milieux, la sagesse de la nation Japonaise a pu finir par vaincre et l'entente est revenue comme auparavant entre les autorités civiles et militaires.

Ce qui nous a poussé à parler de cette question, c'est le succès obtenu par les habiles aviateurs Japonais, avec leur avion "Le Soufle Divin", qui ont pu franchir la distance entre Tokio et Londres en un temps fixé; ils l'ont même franchi en un temps moins que le temps supposé avant leur départ. Ils ont donné par là une preuve de la patience, dont la nation Japonaise en est réputée, de son courage dans les terreurs et de ses bonnes dispositions à tout sacrifier pour son pays. L'Europe entière s'est fait l'écho de ce succès et on parle des aviateurs européens qui ont échoué plus d'une fois à franchir cette distance entre l'Occident et l'Orient.

En écrivant ces lignes, nous avons devant nous un numero publié par le grand journal Nippon dénommé "Osaka Mainchi" intitulé "Le Japon aujourd'hui et demain". Ce numero, dont l'impression, les photos et les chapitres sont merveilleux, contient des informations dans la description du Japon d'aujourd'hui et des détails sur ses aspirations et ses ambitions, ce qui nous montre certains secrets de la réussite miraculeuse des Japonais. Dans une courte période, ils ont pu s'égaliser aux nations occidentales les plus anciennes dans la civilisation et qui regardaient le Japon, au début du XIXème siècle comme étant une nation faible, plongée dans une mer d'imbécilité et d'ignorance.

Mais aujourd'hui, les îles du Japon à l'Est de l'Asie ressemblent en beaucoup de choses aux îles Britanniques à l'Ouest de l'Europe.

Le Japon est un témoin éloquent qui indique ce que les autres nations de l'Orient pourraient faire si elles se procurent les moyens dont le Japon s'était procuré pour arriver à cet état et devenir une des grandes puissances à qui on lui fait un compte dans les politiques mondiales.

F-0354

0066

通

近、  
朝の

公第六二号

昭和十三年四月十四日

在希

臨時代理公使 渡辺信雄

外務大臣 佐藤尚武殿

朝日機雅典通過ニ関シ報告件

朝日新聞訪英飛行機神風ノ当地ニ飛来スルコトニ関シ豫メ関係当局及新聞筋ニ説明シ置ケルモ当國ノ外國飛行機ノ往來頻繁ナル殊ニ日本飛行機ニ付キ何等ノ豫備的智識ヲ有セサル地方ニ於テハ同機カ当地飛行場ニ着陸シ之カ飛行經過及豫定ヲ

在希臘日本公使館

第三號

昭和十三年五月六日

別紙添付

昭和十三年五月六日

12.5.6

報スル迄ハ殆ト何等國人ノ注意ヲ喚起セザリシカ  
愈々同機倫敦ニ到着シ其絶代的成績カ報道  
セラルヤ今更我飛行界ノ進歩發達ニ驚歎シ居ル  
有様ニシテ今回朝日新聞ノ舉行ハ少クトモ当方  
面ニ對シテ我飛行界ノ現状ヲ知ラシムル上ニ大ニ貢  
獻シタルモノト存ス  
本件ニ関スル希國新聞切抜及重テ記事英訳  
各ニ部相添ヘ此段報告申進ス  
(極秘)  
今回飛行ニ関シ当地英國公使館附陸軍武官  
ハ非常ナル注意ヲ以テ情報ヲ蒐集セル旨ノ聞  
込アリ何等御参考迄

在希臘日本公使館

大井  
通



歌置層

第二課長

昭和三年五月六日

公第六三三号

昭和十三年四月五日

在希

別紙添付

臨時代理公使

渡辺信雄



外務大臣 佐藤尚武殿

朝日機成功ニ對スル希國当局祝詞傳達件

四月十四日附公第六二二号往信ニ関シ

今般希國航空次官「エコマコス」氏ハ朝日機成功ニ

對シ別紙寫シ祝詞ヲ本官迄申送り来タレルニ付テ

ハ右御参考迄ニ申進ス。

在希臘日本公使館



F-0354

0068

MINISTÈRE DE L'AIR  
Service de l'Aviation Civile



Athènes, le 12 Avril 1937.

BUREAU DU MINISTRE

Monsieur le Chargé d'Affaires,

J'ai l'honneur d'accuser réception de votre aimable lettre du 10 courant, par laquelle vous avez bien voulu m'informer de l'arrivée à bon terme de leur raid Tokio-Londres des braves aviateurs de votre grande patrie.

Permettez-moi de joindre aux félicitations mondiales pour ce grand record aussi celles de l'Aviation Hellénique et les miennes personnelles. Soyez persuadé que ce raid comptera beaucoup dans le progrès de l'aviation civile qui, je veux bien l'espérer, resserera encore plus par l'air les liens amicaux de nos deux pays. Je puis aussi vous assurer que la réception réservée à vos braves aviateurs par notre personnel de l'Aérodrome de Dekelia n'était que l'expression spontanée et toute naturelle d'enthousiasme tant pour vos aviateurs que pour votre grand pays.

Veillez agréer, Monsieur le Chargé d'Affaires, l'assurance de ma haute considération.

LE SOUS-SECRETARE D'ETAT  
AU MINISTÈRE DE L'AIR:  
(s)  
P. Oekonomakos.  
Général.

Son Excellence  
Monsieur le Chargé d'Affaires,  
Légation Impériale du Japon,

En Ville.

F-0354

0069

情報部

警務局

公第三三九號

昭和十二年四月十五日

在佛

臨時代理大使 内山 岩 太

外務大臣 佐藤 尚武 殿

朝日訪歐機ノ巴里着陸ニ關シ報告ノ件

朝日新聞社飛行機神風號ノ訪歐飛行ニ關シ當國官民ハ昨秋以來數次ニ亘ル當國飛行家ノ巴里東京間飛行計畫ノ失敗ニ終ハレルト右飛行ノ最終階梯ニ於テ不幸遭難負傷セル「アンドレ、ジャツピイ」ニ對スル我方官民ノ同情ヲ深ク多トスル關係モアリ異常ノ興味ヲ示シ當地新聞ハ例外ナク神風號ノ東京出發以來連日同機ノ動靜ヲ報道セル有様ナリシカ九日午後神風號ノ「ブールジェ」飛行場到着ニ際シ當國官邊ハ歡迎出迎ノ在留邦人ニ對シ着陸場及場ヲ特

在佛日本大使館

昭和十二年五月六日 授受  
12.5.6  
12.5.6

在佛日本大使館

ニ許容シ又飛行場ヨリ當館ヘ「アテネ」出發後ノ神風號ノ消息ヲ時々刻々通報スルノミナラス特ニ神風號ノ出迎嚮導ノ爲陸軍飛行機三組編成ノ一隊ヲ派遣シタリ當日飛行場ニ參集セル歡迎者ハ二千名（内在留邦人約二百名）ニ達シ佛側歡迎者中ニハ「コット」航空相代理「クレイメル」大佐「ヴルマン」將軍、佛蘭西飛行俱樂部會長「ワトー」「ファルマン」「シユザンヌ、ド、ラ、ム、ルト」嬢等當國航空界ノ名士及「ベルチエ、ド、アジ」大佐、「コードス」「デトロアイヤ」「ドレエ」「シヤル」「リベール」「マリズ、ヒルツ」等一流飛行家ヲ網羅シタリ午後二時三十分神風號着陸後飛行場格納庫内ニシツラヘタル食卓ニテ祝杯ヲ舉ゲ「クレメル」大佐ヨリ「コット」航空相ノ飯沼操縦士及塚越機關士ニ宛テタル左記「メツサージュ」ヲ披露シ

A votre passage en France, je vous exprime mes vives félicitations pour votre très beau voyage, exemple remarquable de maîtrise et de régularité. Vous avez accompli une performance magnifique, qui fait honneur à l'aéro-nautique japonaise, unie par des liens nombreux et anciens à l'aviation française... Pierre Oot.

在佛日本大使館

次テ「ヴルマン」將軍、「コドス」「マリズ、ヒルツ」「リバー  
ル」「ベルチエ、ドアジ」大佐等亦本件飛行ノ成功ニ對シ祝意  
ヲ表シタリ、其ノ間機ノ給油作業ヲ行ヒ其ノ終了ト共ニ神風號ハ午  
午後三時十六分倫敦ニ向ケ出發シタリ而テ同日夕刊及翌十日ノ各  
新聞ハ舉テ神風號ノ着巴ヲ寫眞入ニテ第一面ニ報道シ神風號ノ成  
功ヲ祝シ飯沼塚越兩飛行士ノ技術竝ニ機体ノ優秀日本工業界ノ進  
歩ヲ賞讃シ本件訪歐飛行カ日佛親善上多大ノ效果ヲ齎セルヲ思ハ  
シメタリ、右報告申進ス

尙神風號着巴ニ關スル新聞記事切抜一括御參考迄ニ添附ス

在佛日本大使館

F-0354

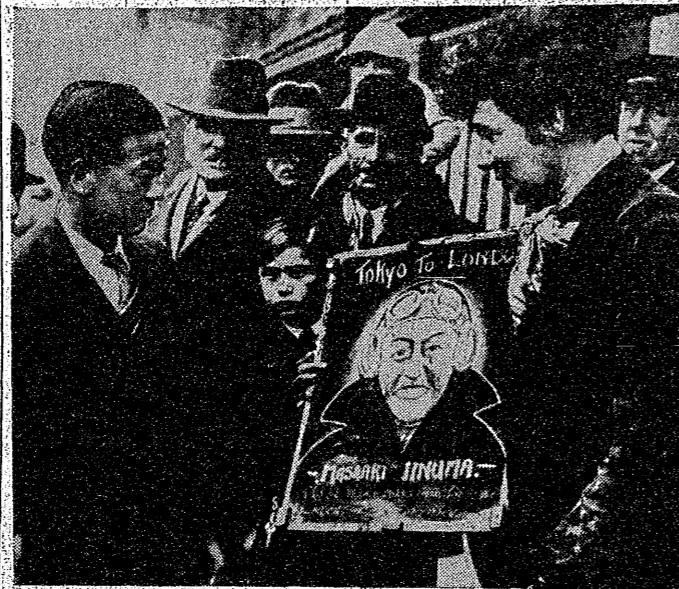
0071



P. Miodi

12 - 4 - 1937

**LE RUBAN BLEU « TOKIO-LONDRES »  
AU-DESSUS DU « QUEEN-MARY »**



L'équipage de l'avion japonais « Vent-Divin », reposé des fatigues de son rapide voyage, commence aujourd'hui la série de ses présentations européennes : il survolera le paquebot « Queen-Mary » à bord duquel se trouve le frère du Mikado. Ci-dessus : le pilote Ihinouma et le radio Tsukakoshi avec leurs compatriotes de Londres.

P. Loin

12 - 4 - 1937



**HIER A LONDRES, LES AVIATEURS IHINOUMA ET...**



**...TSUKAKOSHI ONT PU PARLER AVEC TOKIO**

Les glorieux pilotes du « Vent-de-Dieu » ont passé leur première journée en Angleterre et ce ne furent que réceptions, sur réceptions, télégrammes de félicitations, demandes d'autographes, etc... Dans la journée, ils purent néanmoins converser par téléphone avec leurs amis de Tokio (en haut). Dans un salon de leur hôtel, un groom leur apporte un paquet de télégrammes (en bas).

Temps

11 - 4 - 1937

### Après le raid Tokio-Paris-Londres

#### La joie à Tokio

Tokio, 10 avril.

Tout Tokio est en fête aujourd'hui pour célébrer le succès du *Vent-de-Dieu*.

Le vol record des aviateurs Inuma et Tsukagoshi a été suivi, sur tout le parcours Tokio-Londres, avec un immense intérêt par tout le peuple japonais et également par l'empereur qui s'en est entretenu hier à un déjeuner offert en l'honneur des membres du gouvernement. Dès que lui fut annoncée la nouvelle de l'arrivée à Londres du *Vent-de-Dieu*, le souverain a dit à son entourage la grande satisfaction qu'il éprouvait.

De son côté, André Japy, qui revient en France à bord du *Président-Doumer*, a exprimé au journal *Asahi* ses vives félicitations pour le succès des aviateurs japonais. Dans le radiogramme qu'il a adressé au journal qui a organisé le raid, l'aviateur français dit, en substance :

« C'est un record merveilleux et sans précédent dans les annales de l'aviation que viennent d'accomplir Inuma et Tsukagoshi, en effectuant ce vol à bord d'un avion tout nouvellement construit. Leur performance montre à quel degré de perfection sont arrivés les ingénieurs et constructeurs de l'aviation nipponne, de même que les grandes qualités dont firent preuve les deux aviateurs. J'ai été d'autant plus heureux de leur réussite que je garde le souvenir des témoignages de sympathie dont le peuple japonais m'a comblé à la suite de mon accident sur le mont Seburian, après avoir volé près de cent heures durant depuis Paris. »

André Japy termine son message en disant : « Ce sont de telles compétitions qui soulèvent à la fois l'enthousiasme et de vives émotions tout en affirmant les progrès réciproques des aviations des différents pays, qui raffermiront entre les pays les liens d'amitié qui les unissent ».

#### Les projets des aviateurs japonais

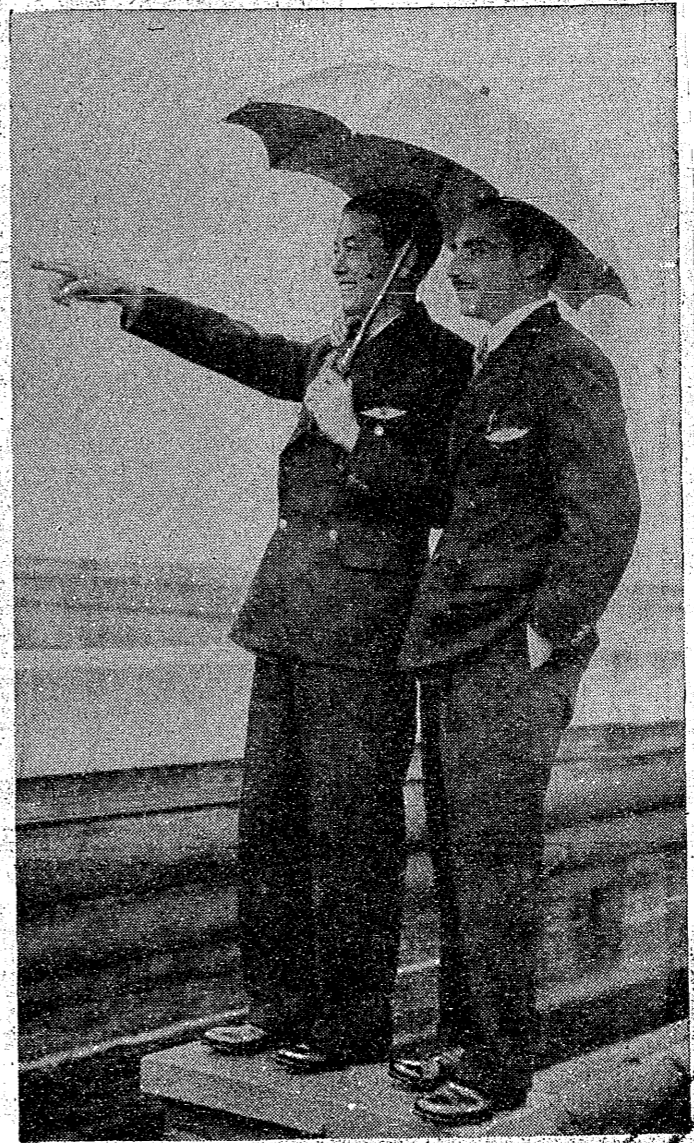
Londres, 10 avril.

Les aviateurs japonais ont annoncé, ce matin, qu'ils comptent s'envoler de Croydon, à bord du *Vent-de-Dieu*, vendredi prochain. Ils visiteront Berlin, puis se rendront en Belgique et en France.

Intransigeant

12 - 4 - 1937

## Après Tokio-Londres...



Après une nuit de repos bien méritée, les aviateurs japonais Inuma et Tsukagoshi admirent... sous un parapluie, de la terrasse de leur hôtel, le panorama de la capitale anglaise.

## 15.650 KILOMÈTRES EN 94 HEURES

Après escale au Bourget, l'avion « Vent-de-Dieu » s'est posé à Londres hier après-midi

Les aviateurs japonais Ihinouma et Tsukakoshi, en réussissant dans des conditions remarquables la liaison Tokio-Londres, viennent d'inscrire au palmarès de l'aviation japonaise une extraordinaire performance.

Partis de Tokio lundi dernier à 17 h. 12, les deux nouveaux recordmen atterrissaient hier après-midi à Croydon à 15 h. 30 (G.M.T.). Ils avaient accompli 15.650 km. en 94 heures 14 minutes, améliorant de plusieurs heures les records précédents, dont celui de Costes et Le Brix qui avaient totalisé 101 heures de vol effectif.

Le monoplan de 550 CV Kamikase, en français « Vent-de-Dieu », est un avion de construction entièrement japonaise. La merveilleuse régularité avec laquelle l'engin a franchi les longues étapes en fait aujourd'hui un champion de la technique moderne.

A plus de 300 km.-heure de moyenne, Ihinouma et Tsukakoshi avaient relié Tokio à Vientiane en 15 heures, franchissant plus de 4.500 km. De Vientiane à Karachi, 4.000 km furent parcourus en 14 heures. Et pour rejoindre Karachi à Athènes, les deux extraordinaires pilotes avaient mis 15 heures. Là encore, une distance de 4.500 km. séparaient les deux villes.

Le dernier bond Athènes-Londres, 2.100 kms, fut réalisé en moins de 7 heures de vol effectif.

C'est là une admirable performance qui correspond à une vitesse moyenne en vol de plus de 300 km.-heure et à une vitesse commerciale de 165 km.-heure.

### L'arrivée au Bourget

La presque totalité de la colonie japonaise avait tenu à venir acclamer les deux aviateurs. Dès midi, la piste du terrain était envahie d'une foule en joie. Chacun avait apporté son drapeau japonais, les enfants et les jeunes filles avaient les bras chargés de bouquets aux couleurs nippones.

Quelques femmes avaient tenu à revêtir le kimono traditionnel et à chausser les zori. Des jeunes gens portaient une pancarte sur laquelle était inscrite en japonais une devise signifiant : « Tous les Japonais de

Paris crient : Vive le Vent-de-Dieu ! ».

De nombreuses personnalités françaises et japonaises, M. Uchiyama, chargé d'affaires ; M. Shigetoku, représentant du journal *Asahi*, organisateur du raid ; M. Yamatsu, secrétaire de l'ambassade ; le général Kraemer ; M. Girardot, directeur de l'aérodrome ; le colonel Pelletier d'Oisy, Marryse Hilz, Marcel Doret avaient tenu à venir accueillir les aviateurs, Mme Japy, la mère de notre compatriote, avait tenu à féliciter aussi les heureux concurrents de son fils.

Vers 2 h., une escadrille d'avions de chasse et de bombardement s'éleva à la rencontre du « Vent-de-Dieu ».

Peu après, mille petits drapeaux s'agitent sur terre, des cris s'élèvent, les deux as japonais font le tour du terrain à faible hauteur.

### Un hommage à Japy

A peine l'avion s'est-il posé que la foule l'entoure. Ihinouma sort le premier de la carlingue, en tenue de ville. La fatigue a à peine marqué ses traits. Il est porté en triomphe jusqu'au hangar où un vin d'honneur est offert aux valeureux aviateurs.

Mais le mécanicien Tsukakoshi, échappant aux félicitations et renonçant au champagne retourne près de son appareil pour une dernière mise au point avant l'ultime étape.

Nous avons pu joindre le pilote quelques instants. Sa première pensée fut pour son camarade Japy.

— C'est un peu grâce à lui, nous dit-il, que nous avons réussi. Nous nous sommes servis de ses propres cartes. Quelques-unes d'entre elles sont encore tachées de son sang. Nous tenons à remercier les services de l'O. N. M. qui, pendant tout notre parcours, ont été parfaits. Nous sommes heureux d'apporter au Japon ce nouveau record et nous sommes touchés du chaleureux accueil que nous a réservé la France !

A 15 h. 16, heure française, les deux hommes reprenaient leur vol vers Londres. Soixante-dix minutes plus tard, ils atterrissaient sur l'aérodrome de Croydon où ils étaient l'objet de la même réception cordiale et pittoresque qu'au Bourget. — L. H.

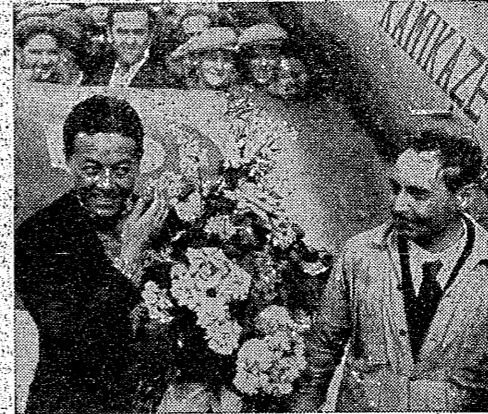
Le journal

10 - 4 - 1937

LE MAGNIFIQUE RAID DU « VENT-DE-DIEU »

# Près de 16.000 kilomètres en moins de cent heures

Après une courte escale à Rome, puis au Bourget, les aviateurs japonais se sont posés hier sur l'aérodrome de Croydon, près de Londres, ayant accompli sans incident le trajet Tôkio - Londres par Hanoï, Vientiane, Calcutta, Karachi, Bagdad et Athènes



Les aviateurs japonais Ihinourma et Tsukakoshi à leur descente d'avion (lire page 7)

Voici les temps réalisés par le « Kamikaze » :

1 <sup>er</sup> JOUR	2 <sup>e</sup> JOUR	3 <sup>e</sup> JOUR	4 <sup>e</sup> JOUR
TOKIO à VIENTIANE	VIENTIANE à KARACHI	KARACHI à ATHENES	ATHENES à LONDRES
4.500 km. en 15 h.	4.000 km. en 14 h.	5.105 km. en 15 h.	2.100 km. en 7 h.



Faisant escale au Bourget, l'avion japonais « Vent-de-Dieu » est accueilli par une foule enthousiaste

F-0354

0075



# Le "Vent-de-Dieu" à Paris

## L'ÉPILOGUE BRILLAMMENT AMENÉ D'UN RAID SOIGNEUSEMENT PRÉPARÉ

[SUITE DE NOTRE ARTICLE DE 1<sup>er</sup> PAGE]

Des compatriotes le couvrent de roses. Disparaissant sous son fardeau, Inuma serre des mains, s'incline avec une politesse exquise, dit quelques mots devant les micros qui se tendent, et se dirige enfin vers le hangar voisin où lui est ménagée une réception des plus chaleureuses.

Abreuvé de champagne et de félicitations, Inuma, qui semble ignorer la fatigue, sourit toujours, donne des poignées de main, des signatures, pendant que son coéquipier Tukagoshi s'occupe lui-même du ravitaillement en essence de l'appareil. A 15 h. 6, heure de Paris, l'escale parisienne prend fin. L'équipage remonte à bord et, sous d'ultimes acclamations, s'envole pour la dernière étape, ce très beau raid devant s'achever à Londres, où l'équipage a atterri à 16 h. 25, soit 15 h. 25 (G.M.T.).

### Succès japonais et tentatives françaises

En reliant le Japon à Paris en 92 h. 17, le « Vent-de-Dieu » a subi victorieusement, et sans paraître éprouver la moindre difficulté, l'épreuve des « 100 heures » imposée par le ministère de l'Air français à nos appareils.

Le succès remporté par l'aéronautique nipponne, qui n'a pas hésité à s'inspirer

des meilleures réalisations américaines, est très net. A sa deuxième tentative, le pilote Inuma a réussi son raid, alors que par quatre fois, les nôtres ont échoué.

Nous n'avons pas l'intention de chercher, pour nos hommes, des excuses. Pas plus qu'il est dans notre pensée de diminuer la superbe performance de l'équipage japonais, mais il semble juste de préciser certains points.

Tout d'abord la liaison France-Japon est beaucoup plus pénible à réaliser que dans l'autre sens, les plus grandes difficultés s'accumulant sur le du du parcours, c'est-à-dire pendant le survol des côtes chinoises et au-dessus de la mer de Chine : les déclarations du pilote Inuma sont formelles sur ce point; et ce sont des hommes fatigués par des milliers de kilomètres parcourus à une allure de raid qui se heurtent, en fin de voyage, à toute une série d'obstacles : mauvais temps, radio défectueuse, ballastage inexistant.

Deuxième point : le matériel. Les Japonais avaient à leur disposition un appareil de grand raid, extrêmement rapide et gros consommateur d'essence.

Les deux équipages français — Libert-Denis, Doret-Micheletti — et André Japy employèrent tous un appareil de grand raid, mais infiniment plus faible et dont la vitesse « de pointe » ne dépassa pas les 280 kilomètres, alors que

le « Vent-de-Dieu », et son moteur de 550 CV, peut le plus facilement du monde atteindre le 330 « de croisière ».

Crise de matériel en France ? Oui. Les « Typhons » ne sont pas encore au point et les « super-Goelands » n'ont pas encore quitté l'usine, pour ne parler que de la maison Caudron, à peu près la seule qui fasse un effort considérable en faveur de notre aviation postale ou de grand raid.

Mais, et que l'on ne pardonne d'ajouter, cette remarque bien attristante, si un appareil très rapide — par conséquent peu économique — avait été au point, nos pilotes ne l'auraient certainement pas employé.

Il ne faut pas que l'on ignore que le choix du « Simoun », indépendamment de ses qualités précieuses, fut surtout dicté par une raison d'économie.

Doret, Micheletti, Libert, Denis et André Japy, tous ont effectué leurs tentatives avec leurs propres ressources, et j'en suis, parmi ces pilotes, qui, pour le sport et l'amour de l'aéronautique, ont donné leur dernier centime.

Je connais peu de professions où l'on risque aussi en risquant de s'enrichir. Avions pulsants et aide financière, ce n'est qu'à cette double condition que nous pourrions effacer nos échecs.

J. P.

## Enthousiasme à Croydon

[DE NOTRE ENVOYÉ SPÉCIAL PERMANENT]

LONDRES, 9 avril. — Le « Vent-de-Dieu », poussé sans doute par le même souffle miraculeux qui jadis dispersa l'invincible Armada du grand Khan de Tartarie, menaçant de ses 300 navires l'empire d'un mikado du 13<sup>e</sup> siècle, était déjà signalé au-dessus de la Manche. Sur Croydon, trois avions d'entraînement descendent du ciel de pique contre le ciel; d'autres appareils tournaient en rond avant de former une escorte improvisée à l'avion japonais, éblouissant vainqueur d'une terrible épreuve.

### Attente à Croydon

Quelques milliers de curieux cernant de nuit les terrasses et les fenêtres des bâtiments du camp formaient une foule nombreuse, comme on en voit rarement à Croydon. Sur le terrain, s'était réunie la colonie japonaise de Londres, où l'on remarquait des groupes d'enfants encombrés de fleurs, un officiel nippon tout d'azur vêtu, un autre, célèbre dit-on pour sa peinture, portant la robe et les sandales nationales; et tous les anonymes armés de remarquables caméras et tenant à la main les petits drapeaux rouge et blanc de l'empire du Soleil Levant.

### Atterrissage impeccable

Précédé de l'éblouissement de l'illumination, le « Vent-de-Dieu » tourne deux fois largement au-dessus de Croydon; sur le terrain un lourd quadrimoteur de croisière appareille lentement comme une frégate; près de lui le « Vent-de-Dieu » se pose avec un grâce irrésistible; on voit Inuma, qui a fini calmement sa manœuvre, soulever la voûte de mica et s'offrir souriant à peine au collier rouge et blanc de fleurs tressées qu'une petite compatriote lui jette au cou.

Dans l'élégante demeure fleurie de la rose fleur du cerisier qu'ils habitent tout près du parc, Inuma et Tukagoshi, n'ont pas troqué leur modeste costume européen contre quelque somptueux kimono; Inuma porte toujours le complet bleu et le chandail qui lui donne l'air d'un marin à terre; Tukagoshi le complet noir qui tout à l'heure étonna tant les Anglais, qui le réservent d'ordinaire aux hommes de bureau qui boivent du jus d'orange en descendant monter par les fenêtres ouvertes la rumeur nocturne d'une grande ville de

l'ouest. Aussi fidèles au rendez-vous qu'ils le furent à l'honneur, ils n'attendent pour nous faire le récit que nous leur avons réservé exclusivement aux lecteurs du Journal.

### Interview des vainqueurs

Il était 2 heures du matin — heure du Japon — quand nos préparatifs terminés, nous montâmes à bord du « Vent-de-Dieu », prêts à la plus grande action de notre vie; ce raid Tokio-Londres longtemps rêvé et qui allait couronner nos efforts et notre collaboration de trois années en même temps qu'il allait ranger le Japon parmi les nations détentrices de records aériens internationaux. Notre première escale devait être l'aérodrome de Taihoku dans l'île de Formose. Tant que nous survolâmes l'île principale du Japon, l'appareil eut vent debout. Au cours de l'étape Tokio-Formose, nous fûmes constamment en relation avec les stations de radio japonaises: Shoshi d'abord, puis Taihoku. Cette étape de 2.200 kilomètres dura sept heures moins six minutes. La seconde étape, qui devait durer presque autant que la première, bien qu'elle fut moins longue, nous mena à Hanoi par un temps épouvantable où la pluie, le vent et le brouillard compliquèrent gravement notre marche.

### Vien-Tiane premier repos

Après une heure d'arrêt, nous repartîmes pour la troisième étape; le temps était toujours défavorable. Bientôt nous aperçûmes le terrain de Vien-Tiane, la ville frontière indochinoise, où nous allions dormir pour la première fois.

Le lendemain nous nous envolâmes vers Calcutta, situés à 2.200 kilomètres à l'ouest. Le temps était meilleur. Il y avait encore de la brume, mais avec de belles éclaircies. Fidèles à notre habitude, nous ne cessâmes à Calcutta qu'une heure, puis ce fut Joghpur et Karachi, où nous prîmes notre deuxième repos. En nous approchant de l'Europe, le temps était redevenu normal; l'étape Bagdad-Athènes ne fut pas trop pénible, bien qu'à ce moment la fatigue, due au peu de sommeil et à la tension nerveuse, se fit sentir plus vivement.

Le voyage d'aujourd'hui, vous le connaissez déjà. Nous volâmes à Londres. Nous sommes heureux d'avoir fini.

Ils ont l'air heureux, en effet, au milieu des tendres fleurs qui ressuscitent le jardin japonais au-dessus de Hyde Park. Ils ont télégraphié au Japon. Ils s'appréhendaient désormais à découvrir l'Europe. Le jeune Inuma du moins, car Tukagoshi l'a vitu-té, il y a trente ans déjà.

YVES MORVAN.

## Joie délirante à Tokio...

[DE NOTRE ENVOYÉ SPÉCIAL PERMANENT]

TOKIO, 10 avril. — Un enthousiasme indescriptible régnait aux alentours de l'Asahi quand à 9 h. 25 l'arrivée du « Vent-de-Dieu » fut annoncée. Une foule énorme agitait des drapeaux dans le feu des projecteurs, chantant l'hymne national, la Chanson du Vol, dansant, criant « bannière », manifestant sa joie pour le magnifique succès des ailes nipponnes. Les drapeaux de l'Asahi inondaient la ville illuminée, ornant toutes les automobiles. Les sirènes hurlèrent. Des personnalités politiques suivies de visiteurs particuliers déposèrent des cartes de félicitations malgré l'heure tardive.

L'intérieur de l'Asahi est décoré de drapeaux; seules les machines travaillent à double vitesse lançant des éditions spéciales. Interviewé, le rédacteur en chef, M. Furukaki, a déclaré :

Nous sommes évidemment très contents de la réussite du vol, qui prouve l'excellence de l'aviation japonaise, et nous voudrions que cela serve au rapprochement du peuple nippon avec les nations européennes, et en premier lieu avec la France. Nous espérons de recevoir un message d'André Japy de Saigon, exprimant sa cordiale admiration; nous en sommes particulièrement touchés. Les sentiments amicaux de l'Asahi pour la France sont illustrés du fait que les pilotes s'octroyèrent l'honneur de choisir, pour passer par Paris.

Nous espérons que le raid du Kamikaze servira à l'établissement d'une route aérienne Tokio-Saigon.

Demain matin, tout le personnel de l'Asahi se rendra au temple de Meiji pour offrir des prières. L'après-midi, l'Association aéronautique organisera un meeting; trente avions survoleront Tokio.

Le succès du magnifique raid du pilote Inuma et de son coéquipier Tukagoshi méritera place dans l'histoire nipponne.

BERNARD VALÉRY.

# LE RAID TOKIO-LONDRES

## Battant tous les records

### le « VENT-DE-DIEU »

## a quitté Rome à 9 h. 36

### Il était attendu au Bourget au début de l'après-midi

SANS VOL DE NUIT, SELON UN HORAIRE SCRUPULEUSEMENT RESPECTÉ, LES AVIATEURS JAPONAIS ONT PU REALISER UNE LIAISON A GRANDE VITESSE

A Londres, l'équipage remettra au roi d'Angleterre un message de l'empereur du Japon

### La dernière étape

ROME, 9 AVRIL. Continuant leur raid Tokio-Londres à une allure record, les aviateurs japonais partis d'Athènes à 5 h. 40 sont arrivés à Rome, à 8 h. 45 d'où ils se sont envolés à 9 h. 36. Ils étaient attendus au Bourget au début de l'après-midi.



À l'atterrissage de l'appareil sur l'aéroport du Littorio à Rome, l'ambassadeur du Japon, M. Sugimura (à gauche) vient féliciter les deux glorieux pilotes, Inouma et Tsukagoshi, que l'on voit debout (à droite) devant la carlingue du « Vent-de-Dieu ».

### « Nous sommes enchantés de notre appareil » a déclaré à Rome l'équipage du « Vent-de-Dieu »

Rome, 9 Avril.  
A leur arrivée à Rome, les aviateurs ont déclaré :  
« Nous sommes sûrs d'arriver à Londres dans les délais que nous nous sommes fixés, ont déclaré ce matin, après leur atterrissage à 9 h. 48, sur le terrain du Licteur, les deux aviateurs japonais pilotant le « Vent-de-Dieu ».  
« Nous avons jusqu'à minuit pour arriver dans la capitale anglaise. Comme nous étions fatigués, nous nous sommes reposés à Athènes par prudence et d'Athènes à Rome, nous avons volé doucement, employant exactement 3 heures et une minute.  
« Notre appareil nous donne une complète satisfaction : nous sommes heureux de pouvoir ainsi battre, en quelque sorte, un des grands records de l'aviation.  
« Sur le terrain du Licteur, dès 5 heures du matin, une petite foule attendait les aviateurs japonais.  
« Sans hâte, les deux aviateurs japonais surveillaient les opérations de ravitaillement et ce n'est qu'à 10 h. 20 qu'ils reprurent leur vol en direction d'Athènes, de Paris, dernière étape avant leur arrivée à Londres.  
« Pendant les fêtes du couronnement, pour lesquelles les aviateurs japonais se rendent dans la capitale anglaise, le « Vent-de-Dieu » fera la navette entre Londres et Rome. En effet, l'envoyé spécial du grand quotidien japonais est certain, en venant confirmer ses télégrammes aux lignes italiennes, de gagner beaucoup de temps sur les transmissions londoniennes qui seront surchargées à ce moment-là.  
« Leur mission terminée, les deux aviateurs reviendront à Rome où ils séjourneront une semaine, invités par le ministère de l'Air Italien. Au cours d'une réception officielle, ils remettront aux autorités fascistes un message « d'amitié et de sympathie du peuple nippon pour le peuple fasciste ».

### Londres attend avec enthousiasme les pilotes nippons

(DE NOTRE ENVOYE SPECIAL PERMANENT)

Londres, 9 Avril (par téléphone).  
Aucun raid d'aviation depuis celui de Lindbergh, n'a soulevé à Londres un tel enthousiasme que ce vol fantastique de Masaaki Ihinuma et engi Tsukagoshi, les deux aviateurs japonais. Après avoir hésité pendant 48 heures sur la valeur de la performance de cet avion, la presse anglaise s'est soudain enflammée. L'Espagne, la conférence du sucre, les petits faits divers quotidiens s'inclinent devant les 300 kilomètres à l'heure de l'avion japonais.  
Hier soir, les deux restaurants nippons de Londres étaient pleins à craquer. Les curieux, dont le signataire de ces lignes, les personnalités de la société londonienne, voulaient se tremper dans cette atmosphère orientale qu'apportent à lire d'alle les deux pilotes de Asahi Shirubun. Ce n'est d'ailleurs pas la fantastique performance de ces deux pilotes japonais qui enthousiasme l'Angleterre. Leur raid est entouré de tout ce mystère que représente le Japon.  
« Jamais, jusqu'à maintenant, on avait entendu parler de l'aviation japonaise mais cette brusque révélation réveille les souvenirs du lustré passé. Le mystère de l'Orient semble s'éclaircir devant la rapidité du vol du Vent Divin.  
« Croydon connaît l'animation des grands jours. De la route, avant l'heure prévue pour l'arrivée de l'appareil, une foule innombrable se presse sur le haut de l'hôtel qui borde l'aérodrome. Le long de la piste, photographes et cinéastes sont rangés comme pour la parade. Plus de 300 Japonais sont là, petits, silencieux et mystérieux, portant chacun un petit drapeau aux couleurs du Soleil Levant. On attend l'ambassadeur du Japon qui doit, d'un moment à l'autre, arriver pour recevoir triomphalement son compatriote. Tout ce que Croydon et l'Angleterre connaît de techniciens, de pilotes et d'enthousiastes de l'air sont là, non seulement pour applaudir au valeureux exploit de ces deux inconnus, mais encore pour étudier la nouvelle mécanique que les Japonais, jusqu'ici inconnus dans le monde de l'air, ont effectuée pour régler à une allure de plus de 300 kilomètres à l'heure l'Extrême-Orient à la vieille Europe.

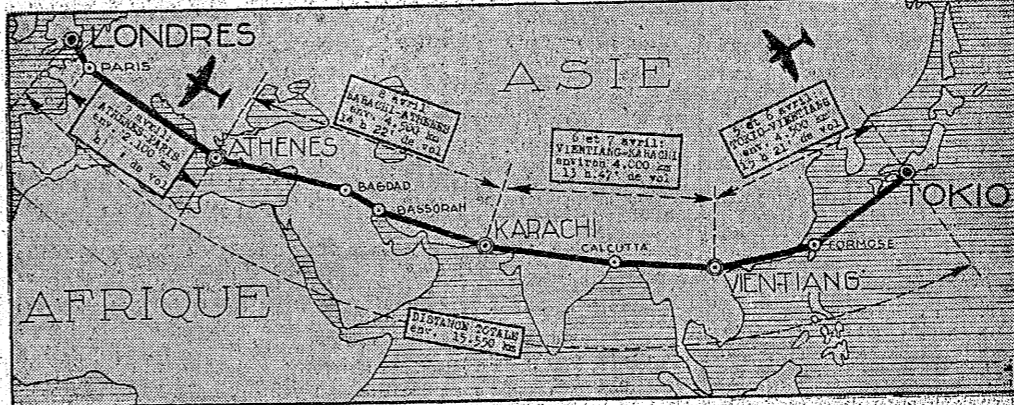
A. de Segonzac.

### Le « Vent de Dieu »

« Osaki, avant ce raid, avait organisé un concours parmi ses lecteurs pour nommer l'avion de grand raid spécialement construit par ses soins. Le nom de Kamikaze, « le vent de Dieu », choisi par les Japonais traditionalistes commémorant un fait important de leur histoire.

« Il y a six siècles, le Japon était menacé d'une invasion chinoise contre laquelle il se trouvait mal défendu, mais au moment même où la flotte des agresseurs arrivait en vue des côtes nipponnes, le « vent de Dieu » s'éleva si puissant que, malgré tous les efforts des Chinois, ceux-ci furent rejetés sur leurs propres côtes.

# Le « VENT-DE-DIEU » attendu au Bourget au début de l'après-midi



Tokio-Paris en moins de 93 heures !  
Tel est l'exploit qu'après une discrète préparation les deux aviateurs japonais Masaaki Ihinuma, pilote, et Kenji Tsukagoshi, radio, vont réaliser.

Et encore n'ont-ils mis aucune précipitation excessive, aucune hâte fébrile à couvrir l'énorme distance de 16.000 kilomètres... Sagement, ils ont évité les vols de nuit, se couchant au crépuscule et se levant avec l'aube, respectant scrupuleusement l'horaire qu'ils avaient prévu.  
Leur machine, le monoplan Mitsubishi 550 C.V., qui atteint une vitesse maximum de 450 km-heure, peut voler à un régime modéré de croisière et sans fatigue du moteur, à plus de 320 km-heure. Plus puissante que nos Simoun elle est aussi plus rapide...

Le « Vent-de-Dieu » a ainsi permis aux deux aviateurs de prendre chaque nuit un long repos, d'éviter les périls décuplés du vol dans l'obscurité et de rattraper largement dans la journée le temps dépensé à l'escalade grâce à sa foudroyante vitesse. Dans l'aviation de raid, ils ont introduit la méthode, la prudence rigoureuse de l'aviation commerciale et si leur liaison à grande allure est une performance sportive, c'est aussi la démonstration de ce qui peut être renouvelé dans un proche avenir et avec régularité avec des avions de transport rapides.

Un équipage nippon a réalisé un projet français... rallier la France au Japon en moins de cent heures.

Il a fait une remarquable démonstration de la méthode japonaise et de la haute valeur de son matériel. La technique française, qui a brillé à travers le monde depuis quelques années, est rejointe par la technique étrangère. Elle doit briller encore... et elle doit s'efforcer de reconquérir dans un avenir prochain les records perdus de Costes et Le Brix (Tokio-Paris en 6 jours 10 heures 53 minutes en avril 1928) et Costes et Robida (Hanoi-Paris en 8 jours 4 heures, 17 minutes en janvier 1932).

J.-G. FLEURY

### L'horaire du raid

- Première étape Tokio-Vientiane  
Départ de Tokio : 17 h. 12, le lundi 6.  
Arrivée Taihoku : 0 h. 19, le mardi 6.  
Départ Taihoku : 1 h. 19, le mardi 6.  
Arrivée Hanoi : 7 h. 28, le mardi 6.  
Départ Hanoi : 8 h. 40, le mardi 6.  
Arrivée Vientiane : 10 h. 50, le mardi 6.  
Soit 4.600 km. parcourus en 17 h. 38', dont 15 h. 21' de vol, soit à la vitesse moyenne de vol de 300 km-h. et à la vitesse commerciale entre étapes de 280 km-h.
- 1° ARRÊT A VIENTIANE DE 12 h. 36  
2° étape Vientiane-Karachi  
Départ de Vientiane : 23 h. 26 le mardi 6.  
Arrivée à Calcutta : 5 h. 19, le mercredi 7.  
Départ de Calcutta : 6 h. 5, le mercredi 7.  
Arrivée à Karachi : 13 h. 49, le mercredi 7.  
Soit 4.000 km. en 14 h. 23', dont 13 h. 47' de vol, soit à la vitesse moyenne en vol de 290 km-h. et à la vitesse commerciale entre étapes de 270 km-h.
- 2° ARRÊT KARACHI DE 10 h. 26'  
3° étape Karachi-Athènes  
Départ Karachi : 0 h. 15, le jeudi 8.  
Arrivée Bassorah : 6 h. 45, le jeudi 8.  
Départ Bassorah : 7 h. 35, le jeudi 8.  
Arrivée Bagdad : 9 h. 15, le jeudi 8.  
Départ Bagdad : 10 h. 3, le jeudi 8.  
Arrivée Athènes : 16 h. 15, le jeudi 8.  
Soit 4.500 km. parcourus en 16 h., dont 14 h. 23' de vol, soit à la vitesse en vol de 310 km-h. et à une vitesse commerciale entre étapes de 281 km-h.
- 3° ARRÊT ATHENES DE 13 h. 25.  
4° étape Athènes-Paris  
Départ Athènes : 5 h. 40.  
Arrivée Rome : 8 h. 45.  
Départ Rome : 9 h. 38.

### Un message au peuple anglais

Les aviateurs sont porteurs d'un message spécial de leur journal l'« Asaki », le grand quotidien paraissant simultanément à Tokio et Osaka, qui organise ce raid et qui apporte au peuple anglais...

œuvre

10 - 4 - 1937

# LE « VENT-DE-DIEU » A BATTU TOUS LES RECORDS

## DU JAPON EN ANGLETERRE EN 94 HEURES

L'avion de Inuma  
et Tukagoshi  
s'est posé à Croydon  
à 16 h. 30

après avoir fait  
escale au Bourget  
de 14 h. 32 à 15 h. 16

Une foule enthousiaste  
a acclamé  
les aviateurs japonais

(Voir à la 3<sup>e</sup> page.)



Les deux aviateurs accueillis au Bourget par le représentant de l'ambassade du Japon

République

10 - 4 - 1937

# L'AVION JAPONAIS "VENT-DE-DIEU" BATTANT TOUS LES RECORDS ACCOMPLIT LE RAID TOKIO-LONDRES EN 94 H. 13

## TOKIO-LONDRES

# Le formidable raid du "Vent-de-Dieu"

Comme nous l'avons annoncé hier, *Vent-de-Dieu* a atterri à Londres dans l'après-midi, à 16 heures 25, ayant relié Tokio à Londres en 94 heures, battant ainsi et de loin tous les records établis jusqu'à présent.

Les glorieux aviateurs japonais avaient auparavant fait une ultime escale au Bourget où, entre 14 h. 30 et 15 h. 15, ils ont été l'objet d'une manifestation enthousiaste tant de la part de la colonie japonaise de Paris que de nombreux admirateurs qui étaient venus les attendre. Dès qu'il apparut dans le ciel, une escadrille d'aviation de bombardement se porta à sa rencontre pour le saluer. Et à 14 heures 32 exactement le *Vent-de-Dieu* s'arrêtait devant les hangars de l'aérodrome du Bourget, 92 heures et 17 minutes après son départ de Tokio.

A peine sortis de leur carlingue, les deux aviateurs remirent aux autorités qui les accueillaient un message de M. Uyeno, directeur du journal *Asahi*, dont voici le texte :

M. Uyeno, directeur du journal *Asahi*, organisateur du raid aérien Tokio-Hanôï-Paris-Londres, adresse au peuple français, par l'entremise confraternelle de la presse, son sincère salut et l'assurance de sa vive sympathie. Il est très heureux d'avoir pu confier ce message à ces vaillants aviateurs Inuma et Tukagoshi, comme il a déjà eu le plaisir de le faire en 1925, par l'intermédiaire des deux équipages Abe-Shinohara et Kawatchi-Katakini.

Tandis que le pilote Inuma se dirigeait vers le hangar où une réception avait été organisée, le navigateur Tukagoshi s'occupait de l'avion et faisait le plein d'essence.

Une demi-heure plus tard, follement acclamés, les deux aviateurs décollaient

en direction de Londres où ils arrivèrent à 16 h. 25.

A Croydon, ils furent reçus également par la colonie nipponne de Londres et une foule de sportsmen en tête desquels étaient plusieurs hauts fonctionnaires et diplomates.

Au mât de l'aérodrome flottait le pavillon nippon et après s'être restaurés rapidement, les deux aviateurs ont prononcé quelques mots au micro, qui furent retransmis par la B. B. C. et par les postes japonais.

A Tokio, il est inutile de dire que l'enthousiasme est à son comble.

Le journal *Asahi* était littéralement assailli et une ovation formidable s'est élevée de la foule, quand un écran lumineux annonça l'arrivée au Bourget du *Vent-de-Dieu*, qu'accompagnaient les pères de nombreux pèlerins qui, jour et nuit, recueillaient devant le temple de Shinjuku, le village natal du pilote Inuma.

L'Aéro-Club impérial prépare, en l'honneur des aviateurs, trois journées de réjouissances à Tokio et à Osaka.

On souligne qu'il s'agit du premier exploit d'un jeune pilote âgé de 25 ans, sur un avion de construction entièrement japonaise et on annonce le lancement prochain d'un nouvel avion plus puissant encore, dont le rayon d'action atteindra quinze mille kilomètres, et qui est actuellement en cours d'essais à l'aérodrome de Tokio.



**Fukagoshi  
et Linuma  
ont été accueillis  
trionphalement  
au Bourget**

**Ils avaient relé  
Paris à Tokio  
en 93 heures**

Parti hier matin d'Athènes, le *Vent-de-Dieu* a atterri hier — après une courte escale à Rome — à 14 h. 34 au Bourget où les courageux aviateurs ont reçu un accueil enthousiaste.

Une foule massée depuis midi attendait en effet. On reconnaissait entre autres personnalités Mlle Deutsch de la Meurthe, Mme Japy, Maryse Hilsz, et bien d'autres fervents de l'aviation.

A 14 h. 29, le monoplane apparut, gris et bleu, avec sur les ailes le « Soleil Rouge » du Japon. Il fait deux tours à faible altitude et se posa. Des femmes, les bras chargés de fleurs se précipitèrent.

Les cinéastes interviennent, ainsi que les photographes et les radio-reporters. Puis, pendant que M. Fukagoshi reste à bord pour surveiller le plein d'essence, son compagnon M. Linuma se dirige vers le hangar où la Compagnie Air-France avait organisé une réception.

Le colonel Kraemer lut alors aux aviateurs le message de M. Pierre Cot, ministre de l'Air.

« A votre passage en France vous exprime mes vives félicitations pour ce beau voyage, exemple remarquable de maîtrise et de régularité. Vous avez établi une performance magnifique qui fait honneur à l'aéronautique japonaise unie, par des liens nombreux et anciens, à l'aviation française ».

M. Linuma répondit aussitôt :

« Nous remercions le ministre de son aimable message. Nous sommes très heureux d'avoir réussi à rallier la France ».

« Nous sommes très émus du chaleureux accueil que les Français nous ont réservé et nous tenons à les remercier bien vivement ».

On s'abîma le champagne.

A 15 h. 16, dans un décollage magnifique, le *Vent-de-Dieu* repartait, pour atterrir à Croydon, une heure et neuf minutes plus tard, exactement à 16 h. 25 (heure d'été française).

Londres avait été reliée à Tokio en 94 heures et dix minutes.

Reçus par M. Yoshida, ambassadeur nippon à Londres, les aviateurs se sont immédiatement approchés du micro et ont prononcé quelques mots qui ont été radiodiffusés au Japon.

Republique

10 - 4 - 1937

**L'AVION JAPONAIS  
"VENT-DE-DIEU"  
BATTANT TOUS LES RECORDS  
ACCOMPLIT LE RAID  
TOKIO-LONDRES EN 94 H. 13**

TOKIO-LONDRES

**Le formidable raid  
du "Vent-de-Dieu"**

Comme nous l'avons annoncé hier, *Vent-de-Dieu* a atterri à Londres dans l'après-midi, à 16 heures 25, ayant relé Tokio à Londres en 94 heures, battant ainsi et de loin tous les records établis jusqu'à présent.

Les glorieux aviateurs japonais avaient auparavant fait une ultime escale au Bourget, où, entre 14 h. 30 et 15 h. 15, ils ont été l'objet d'une manifestation enthousiaste tant de la part de la colonie japonaise de Paris que de nombreux admirateurs qui étaient venus les attendre.

Dès qu'il apparut dans le ciel, une escadrille d'aviation de bombardement se porta à sa rencontre pour le saluer. Et à 14 heures 32 exactement le *Vent-de-Dieu* s'arrêtait devant les hangars de l'aérodrome du Bourget, 92 heures et 17 minutes après son départ de Tokio.

A peine sortis de leur carlingue, les deux aviateurs remirent aux autorités qui les accueillèrent un message de M. Uyeno, directeur du journal *Asahi*, dont voici le texte :

M. Uyeno, directeur du journal *Asahi*, organisateur du raid aérien Tokio-Hanoi-Paris-Londres, adresse au peuple français, par l'entremise confraternelle de la presse, son sincère salut et l'assurance de sa vive sympathie.

Il est très heureux d'avoir pu confier ce message à ces vaillants aviateurs Inuma et Fukagoshi, comme il a été au plaisir de le faire en 1925, par l'intermédiaire des deux équipages Abe-Shinohara et Kawachi-Katakini.

Tandis que le pilote Inuma se dirigeait vers le hangar où une réception avait été organisée, le navigateur Fukagoshi s'occupait de l'avion et faisait le plein d'essence.

Une demi-heure plus tard, follement acclamés, les deux aviateurs décollèrent

en direction de Londres où ils arriveront à 16 h. 25.

A Croydon, ils furent reçus également par la colonie nipponne de Londres et une foule de sportsmen en tête desquels étaient plusieurs hauts fonctionnaires et diplomates.

Au mât de l'aérodrome flottait le pavillon nippon et après s'être restaurés rapidement, les deux aviateurs ont prononcé quelques mots au micro, qui furent retransmis par la B. B. C. et par les postes japonais.

A Tokio, il est inutile de dire que l'enthousiasme est à son comble.

Le journal *Asahi* était littéralement assésé et une ovation formidable s'est élevée de la foule, quand un écran lumineux annonça l'arrivée au Bourget du *Vent-de-Dieu*, qu'accompagnaient les prières de nombreux pèlerins qui, jour et nuit, se recueillaient devant le temple de Shinano, le village natal du pilote Inuma.

L'Aéro-Club impérial prépare, en l'honneur des aviateurs, trois journées de réjouissances à Tokio et à Osaka.

On souligne qu'il s'agit du premier exploit d'un jeune pilote âgé de 25 ans, sur un avion de construction entièrement japonaise et on annonce le lancement prochain d'un nouvel avion plus puissant encore, dont le rayon d'action atteindra quinze mille kms, et qui est actuellement en cours d'essais à l'aérodrome de Tokio.

Ami du peuple

10 - 4 - 1937

**UN RAID SENSATIONNEL**  
**Le « Vent-de-Dieu »**  
après une courte escale  
au Bourget  
s'est posé hier après-midi  
à Croydon

Tokio-Londres en 95 heures



Les deux aviateurs, à leur passage au Bourget, s'entretenant avec le représentant du ministre du Japon.

Les aviateurs japonais Nasacki Iimura et Tsubonoski pilotent le Vent-de-Dieu, monoplane métallique biplace, à ailes basses et train d'atterrissage fixe, de construction entièrement japonaise, ont mené à bien leur tentative de liaison rapide Tokyo-Faris-Londres.

Sans vol de nuit, selon un horaire scrupuleusement respecté, ils ont rejoint Tokyo à Rome en 57 heures 28 minutes et Tokyo à Paris en moins de 98 heures.

Ils ont donc réalisé le raid Tokyo-Londres (15 500 km.) en moins de 100 heures, terme qu'ils s'étaient fixé.

Cette remarquable démonstration de la méthode japonaise met en valeur le matériel et les pilotes.

Costes et Le Briea détiennent le record Tokyo-Paris avec 6 jours, 10 heures 53 minutes, performance réalisée en avril 1928. Ce record est donc très largement battu.

Par contre, le Vent-de-Dieu n'a pu voler à Godos-Robida le record Hanoi-Paris, porté à 3 jours 4 heures 11 minutes avec un avion qui ne dépassait pas la vitesse de 250 kilomètres-heure. Pour éclipser l'exploit de Godos et de Robida, les aviateurs japonais ont tenté de arriver au Bourget avant 12 h. 54.

On se souvient des échecs successifs que nos meilleurs pilotes durent enregistrer sur le même parcours, mais dans le sens Paris-Tokio. Ces échecs, dont le plus regrettable fut celui de Jagy qui semblait devoir réussir, ajoutent encore à la valeur de la remarquable performance des Japonais.

Le Vent-de-Dieu, qui est muni d'un moteur de 550 C.V., peut atteindre une vitesse maxima de 450 kilomètres à l'heure. Il est donc plus puissant et plus rapide que nos appareils utilisés pour cette tentative puisque sa vitesse de croisière régnant modérée est en ce de 300 kilomètres à l'heure.

### L'arrivée à Paris et à Londres de l'avion japonais «Souffle-des-Dieux»

L'avion japonais Kakimaze, le Souffle-des-Dieux, s'est posé hier au Bourget à 14 h. 29.

Une réception triomphale a été réservée à l'équipage par les amateurs de grandes et belles choses aériennes.

Car c'en est une que cette liaison Tokio-Paris en moins de cent heures, réalisée par le pilote Ihinouma et le navigateur-mécanicien Tsugokoshi.

Les deux hommes ont mis 92 heures 17 minutes exactement pour venir de Tokio.

Et cela, sans voler de nuit, en se couchant à chaque escale. Rien ne peut mieux faire ressortir les qualités de vitesse de l'appareil entièrement construit au Japon.

C'est assez dire si l'industrie nipponne, hier encore tributaire des aviations étrangères aussi bien dans le domaine des cellules que celui des moteurs, a fait des progrès! L'aéronautique japonaise débute par un coup de maître.

Il est amusant de rappeler que le premier équipage nippon venu de Tokio à Paris en passant par la Sibérie — il y a de cela de très nombreuses années — avait mis deux mois et trois jours à effectuer une liaison qui cette fois-ci n'a demandé que 49 heures 4 minutes de vol. Le reste du temps, les aviateurs se sont sagement reposés.

Rappelons que Costes et le malheureux Le Brix avaient, en 1928, effectué Tokio-Paris en 6 jours 11 heures 53 minutes en volant de jour et de nuit, comme des forcenés.

Entre le vieux Breguet de 28 et le moderne avion japonais de 37, il a coulé beaucoup d'eau dans le Mékong, et les cerisiers se sont couverts de fleurs pas mal de fois!

Le brillant équipage japonais, après avoir sablé le champagne dans les hangars du Bourget, reçu force compliments, s'est envolé à 16 h. 25 vers le but de son voyage: 1 h. 19 minutes après, il atterrissait à Croydon, où six mille Britanniques firent aux aviateurs une réception triomphale. Fatigués, les deux hommes remirent à plus tard des déclarations qu'il sera intéressant d'examiner. Le temps a manqué au Bourget pour regarder attentivement leur machine et savoir aussi en gros les conditions météorologiques, dont ils ont bénéficié. Il semble bien que sauf les deux premiers jours, le temps ait été éminemment favorable. Les prières de la foule japonaise qui, durant les 92 heures du voyage, s'est pressée devant le temple de Shinano, ont été exaucées.

Cette liaison rapide était destinée à porter, par l'intermédiaire du grand journal *Asahi*, les vœux de l'Empire du Soleil Levant au peuple de l'Empire britannique à l'occasion du couronnement de Sa Majesté George VI.

Notre confrère japonais a réussi de bout en bout dans son entreprise. On l'en félicite sans oublier notre ami Siguetoku, représentant à Paris de l'*Asahi*. — Szw.

Voici les principaux passages du message adressé par le journal japonais *Asahi Shimbun* à la nation anglaise, message qui a été apporté à Londres par les aviateurs du Souffle-des-Dieux:

C'est pour nous un grand honneur et un grand plaisir que de présenter nos félicitations les plus sincères à la grande nation britannique, notre vieille alliée, pour l'événement d'heureux présage que sera le couronnement.

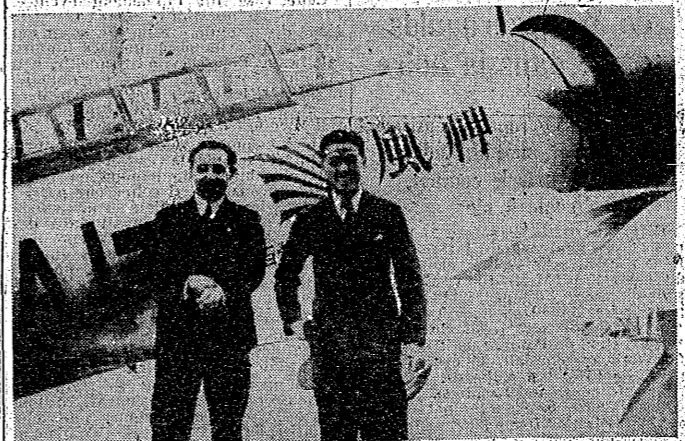
Volant par les cieux des deux continents asiatique et européen, nos deux envoyés spéciaux aériens vous apportent en personne, toute fraîche venue du Japon, l'expression de notre chaleureuse amitié et de la bonne volonté que nous avons toujours entretenue à l'égard du peuple britannique.

Leur vol dans un appareil à grande vitesse, de fabrication entièrement japonaise, constituera à vos yeux la preuve des progrès faits par le Japon dans le domaine de l'aviation pacifique, progrès largement due à l'aide précieuse que la Grande-Bretagne nous a si volontiers accordée dès le début.

Le message se termine par l'expression de la confiance dans la fraternité des ailes des deux peuples, propre à crier une atmosphère de cordialité au milieu des orages qui menacent la paix du monde et par ce respectueux salut: « Dieu sauve votre roi bien-aimé »

## TOKIO-LONDRES en 94 heures 13 par le «Vent-de-Dieu»

Partis de Tokio mardi à 18 heures 12 les aviateurs japonais, après escale hier à 14 heures 34, au Bourget, ont atterri à Croydon à 16 heures 25, battant ainsi tous les records



Les deux aviateurs japonais Tsukakoshi (à gauche) et Ihinuma (à droite) devant leur avion «Kamikaze».

Londres, 9 avril. — L'avion japonais Vent-de-Dieu a atterri à l'aérodrome de Croydon, à 16 heures 25 (G.M.T.).

Il a mis trois jours 22 heures 13 minutes pour effectuer le trajet Tokio-Londres.

#### La dernière journée

Le Vent-de-Dieu avait quitté Athènes ce matin à l'aube, puis atterri à l'aérodrome romain de Montecello à 3 h. 45.

A 10 h. 36, l'avion japonais reprenait son vol vers Le Bourget, où il arrivait à 14 h. 34, ayant couvert cette escale de 1150 kilomètres en 3 h. 58 minutes.

M. Pierre Cot faisait alors parvenir aux deux aviateurs le message suivant: « A votre passage en France, je vous exprime mes vives félicitations pour votre très beau voyage, exemple remarquable de maîtrise et de rapidité. »

(Suite en 3<sup>e</sup> page, 1<sup>er</sup> colonne)

(Suite de la première page)

« Vous avez accompli une performance magnifique, qui fait honneur à l'aéronautique japonaise, une par des liens nombreux et anciens à l'aviation française. »

Après avoir été l'objet de maintes ovations, d'innombrables marques de sympathie, sur notre aéroport parisien, les deux Japonais repartaient à 15 heures 16 pour Croydon, où ils se posaient à 16 h. 25.

Répondant au télégramme qui lui avait été adressé, ce matin, par M. Pierre Cot, ministre de l'Air, l'équipe japonaise du « Vent de Dieu », a envoyé le message suivant: « Merci de vos vœux. Nous reviendrons vous voir dans trois ou quatre jours. Au revoir. »

# Le « Vent-de-Dieu » a etabli le record Tokio-Londres en 94 heures 14 minutes et a parcouru 15.560 kilometres

**SON ESCALE AU BOURGET ET SON ARRIVEE A GROUYDON ONT ETE SALUEES  
PAR DES ACCLAMATIONS ENTHOUSIASTES**



Les deux aviateurs Ihinouna et Tsukakoshi avec le représentant du ministre du Japon, au Bourget.

Pour la première fois des aviateurs ont réussi à relier Tokio à Paris et Londres en moins de cent heures. Et ce sont des japonais, utilisant un magnifique biplan, qui ont accompli cet exploit. Le capitaine Ihinouna, 28 ans, et le pilote Tsukakoshi, 38 ans, sourient aux acclamations qui montent vers eux en même temps que les gerbes de fleurs. On les félicite et on leur serre la main. Ils ont accompli leur exploit sans encombre et ont fait et copiant un peu dédaigne des vainqueurs.

Ihinouna et Tsukakoshi, bloqués devant leur carlingue, restent un bon quart d'heure la proie des photographes et des cinéastes. On dégage le premier pour l'empêcher voir le hangar où un buffet a été dressé, tandis que le second s'affaire autour de l'appareil dont on remplit le réservoir.

On voit le champagne et le colonel Krenner donne lecture du message de félicitation que l'empereur d'Empire a adressé au couple. Le capitaine Ihinouna, qui a accompli cet exploit, est un homme d'une grande maîtrise et de régularité. Vous avez accompli une performance que seuls les japonais ont pu accomplir. Vous avez parcouru une route difficile et dangereuse. Vous avez été vainqueurs.

A l'issue de la réception, le capitaine Ihinouna et le pilote Tsukakoshi se dirigent vers le hangar où se trouve leur biplan. Ils sont accompagnés par le capitaine Krenner et le colonel Krenner. Le capitaine Ihinouna et le pilote Tsukakoshi sont très fatigués mais ils sont très heureux. Ils ont accompli leur exploit sans encombre et ont fait et copiant un peu dédaigne des vainqueurs.

(Voir la suite à la troisième page)



L'aviateur pilote Ihinouna est embrassé, à son arrivée au Bourget, par l'attachée militaire française, Margie Hiltz.

## La réception au Bourget

Grande animation au Bourget, dès les premières heures de la matinée. Il faut être patient car le Vent-de-Dieu ne sera pas en vue avant 11 heures. Mais à 11 heures et 11 minutes, le biplan apparaît et il ne faut aller vite, la route est longue entre la « Ville Eternelle » et la « Ville-Lumière ».

Heureusement il y a toujours du spectacle sur l'aérodrome dont la nouvelle aérogare dressée maintenant sa massive silhouette. Des avions atterrissent, décollent pour toutes les directions. De nouvelles machines font entendre leurs moteurs et leurs hélices. On voit des avions militaires et des avions de ligne. On voit des avions de ligne et des avions militaires. On voit des avions de ligne et des avions militaires.

En attendant le Vent-de-Dieu, les journalistes pointent les personnalités. On reconnaît M. Ouchinsky, chargé d'affaires de l'ambassade japonaise à Paris, le capitaine de vaisseau Yamada attaché naval, le général Vuillemin, le colonel Krenner, représentant le ministre de l'Air ; M. Siguetkou, rédacteur en chef pour l'Europe du journal Asahi, organisateur du raid ; le colonel Watani, Miles Suzanne, Deutsch de la Meurthe, Margie Hiltz, M. Gauchet, directeur commercial d'Air-France ; les pilotes Deroval, Doré, et les membres de l'équipe, le capitaine de vaisseau Hiltz, le capitaine de vaisseau Hiltz, le capitaine de vaisseau Hiltz.

Les membres de la colonie japonaise sont discrètement nombreux. Sur leurs visages la joie rayonne et ils discutent leur enthousiasme sous le voile d'une expise modeste, on sent leur impatience d'agiter leurs drapeaux blancs sur lesquels Tamponne le disque

En attendant le Vent-de-Dieu, les journalistes pointent les personnalités. On reconnaît M. Ouchinsky, chargé d'affaires de l'ambassade japonaise à Paris, le capitaine de vaisseau Yamada attaché naval, le général Vuillemin, le colonel Krenner, représentant le ministre de l'Air ; M. Siguetkou, rédacteur en chef pour l'Europe du journal Asahi, organisateur du raid ; le colonel Watani, Miles Suzanne, Deutsch de la Meurthe, Margie Hiltz, M. Gauchet, directeur commercial d'Air-France ; les pilotes Deroval, Doré, et les membres de l'équipe, le capitaine de vaisseau Hiltz, le capitaine de vaisseau Hiltz, le capitaine de vaisseau Hiltz.

Les membres de la colonie japonaise sont discrètement nombreux. Sur leurs visages la joie rayonne et ils discutent leur enthousiasme sous le voile d'une expise modeste, on sent leur impatience d'agiter leurs drapeaux blancs sur lesquels Tamponne le disque

(Suite de la première page)

Codos, Maryse Hiltz, Libert, Pelletier-Doisy et d'autres qui connaissent bien l'Extrême-Orient le félicitent avec chaleur... mais son regard s'éclaircit surtout lorsqu'on lui présente Mme Japy mère qui, depuis de longs mois aspire après son fils.

Les ouvriers du Bourget, massés devant l'entrée du hangar poussent un vigoureux : « Hip, hip, Hurrah, pour les Japonais ». Pas un poing ne s'est levé pour ponctuer cette acclamation... et ce fut très bien ainsi.

A 15 h. 16 le *Vent-de-Dieu* aux acclamations de l'assistance décollait pour Londres où il arrivait à 16 h. 25 après 3 jours 22 heures 14 minutes, soit 94 heures 14 minutes d'un voyage fulgurant Tokio-Londres comportant 15.560 kilomètres.

### Un magnifique record

La prouesse de l'équipage du *Vent-de-Dieu* est en tous points admirable. Ihinouma, qui pilote habituellement l'avion du journal *Asahi* avait préparé son raid avec une grande prudence et une rare habileté. En décidant de ne pas voler la nuit il simplifiait sa tâche et s'accordait à l'avance plusieurs heures de repos à chaque escale, évitant ainsi une fatigue excessive qui fut certainement fatale à André Japy.

Il convient toutefois de remarquer, et cela sans diminuer en rien le mérite exceptionnel de l'équipage nippon, que le record Hanoi-Paris établi par Codos et Robida en 3 jours et 4 heures, n'a pas été battu et qu'André Japy, parti de Paris avec un Caudron-Renault muni d'un moteur de 220 CV seulement (celui du *Vent-de-Dieu* est de 550 CV) n'était qu'à 800 kilomètres de Tokio lorsque son avion s'écrasa sur une montagne, 75 heures 44 minutes seulement après son envol.

### Le tableau de marche

Voici l'horaire du raid de l'avion *Vent-de-Dieu*.

5 avril 17 h. 12	Dép. de Tokio.
6 avril 0 h. 14	Arr. à Formose.
1 h. 19	Dép. de Formose.
7 h. 23	Arrivée à Hanoi.
8 h. 40	Départ de Hanoi.
10 h. 50	Arr. à Vientiane.
23 h. 26	Dép. de Vientiane.
7 avril 4 h. 36	Arr. à Calcutta.
5 h. 30	Dép. de Calcutta.
14 h. 20	Arrivée à Karachi.
8 avril 0 h. 15	Départ de Karachi.
6 h. 45	Arr. à Bassorah.
7 h. 35	Dép. de Bassorah.
10 h. 15	Arr. à Bagdad.
16 h. 15	Dép. de Bagdad.
9 avril 6 h. 40	Arr. à Athènes.
2 h. 46	Dép. d'Athènes.
10 h. 36	Arr. à Rome.
14 h. 29	Dép. de Rome.
15 h. 16	Arr. au Bourget.
16 h. 25	Dép. du Bourget.
16 h. 25	Arr. à Londres.

On ne peut rêver plus merveilleuse régularité qui fait autant d'honneur à l'équipage qu'au matériel.

L'exploit des Japonais va-t-il ouvrir l'ère d'une nouvelle compétition sur le parcours? Des aviateurs français songent à l'égaliser, voire le surpasser. Ils y réussiront sans doute; mais il restera aux Japonais la légitime fierté d'avoir tracé la voie à leurs rivaux.

JEAN ROUTHIER.

### L'arrivée à Croydon

Londres, 9 avril. — Une foule considérable dans laquelle on remarquait de nombreux membres de la colonie japonaise à Londres, a accueilli les aviateurs Ihinouma et Tsukakoshi à leur arrivée à Croydon.

A 15 heures 26, tous les regards tournés vers le Sud-Est aperçurent l'appareil qui, avant de se poser décrivit trois cercles au-dessus de l'aérodrome sous les vivats incessants de milliers de spectateurs.

Après avoir pris contact avec le sol, à 15 heures 30 exactement, à l'extrémité Nord du terrain, le *Kamikaze*, roulant à petite allure traversa le vaste champ gazonné et s'arrêta sur l'esplanade de bitume aménagée devant les bâtiments de l'aéroport. Les deux aviateurs, souriant malgré leur fatigue, sortirent alors de la carlingue, cependant que l'appareil était pris d'assaut par une foule hurlante contenue à grand-peine par le service d'ordre.

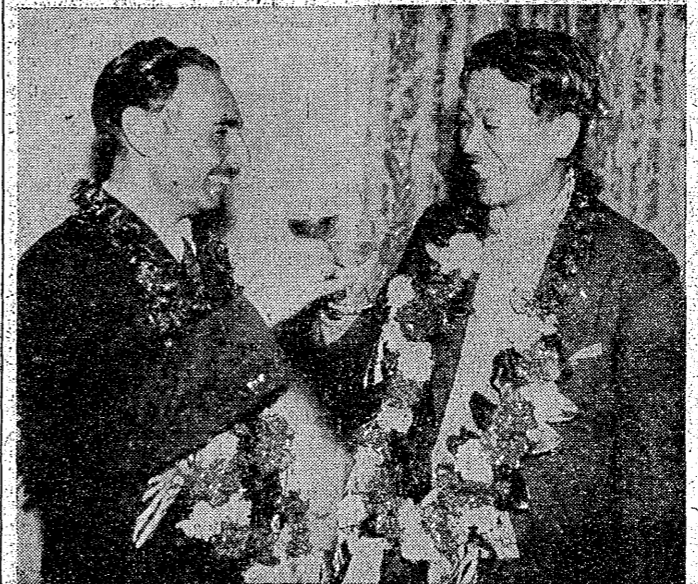
P. Mioli

10 - 4 - 1937

# L'exploit du « Vent-de-Dieu » 16.000 kilomètres en 94 heures 13

## L'équipage et l'avion japonais :

- 1° — Ont établi un nouveau record : Tokio-Londres ;
- 2° — Ont battu le record français Tokio-Paris ;
- 3° — Ont presque égalé le record Hanoi-Paris de 1931.



Dans leur hôtel de Londres, hier soir, Ihinouma et son radio Tsukakoshi se félicitent mutuellement de la réussite de leur raid.

En 94 heures 13 minutes, un nouveau « rapprochement » vient d'être opéré entre les deux nations : Japon et Grande-Bretagne. Car l'exploit aéronautique accompli par le *Vent-Dieu* et son équipage, avisé offre bien, en outre, la valeur d'un symbole.

Par là, le cadre de l'aéronautique est dépassé; le message apporté par le monoplane japonais le souligne assez : « Nous sommes fermement convaincus que la fraternité des ailes qui a toujours existé entre nous sert immensément à rapprocher nos deux peuples dans la cause de l'amitié et des bienfaits réciproques, et à créer une atmosphère de paix et de cordialité au-dessus des relations internationales actuelles et qui menacent la paix mondiale pour demain. Dieu sauve votre roi bien aimé. — Signé : Seichi Oyeno, président de l'Asahi Shimbun. »

P. Lain

10 - 4 - 1937

amenant le film  
du couronnement  
le "Vent-de-Dieu"  
reviendra à Tokio  
à grande vitesse



Hier soir, à leur hôtel, les deux aviateurs japonais se congratulent réciproquement de la réussite du raid

F-0354

0085



**LE PLOTE DU « VENT-DE-DIEU » A DORMI HIER SOIR A LONDRES**  
Le rêve de Masada Ihinuma s'est réalisé. Parti il y a quatre jours de Tokio, il a pu dormir hier soir dans un lit londonien. Après la réception du Bourget, puis celle de Croydon, l'excellent orateur était quelque peu étourdi. Et c'est avec un plaisir certain qu'il se glissa dans les draps...



**MARSE HIESZ EMBRASSE IHINUMA**  
L'avatrice française qui n'ignore rien des ronds au-dessus de l'Asie, avait tenu hier à venir féliciter les deux Nippons au Bourget. Et spontanément elle embrassa Ihinuma...

Des Jaunes volent de Tokio à Londres sur le "Vent-de-Dieu"

En moins de quatre jours relier Tokio à Londres (plus de 16.000 kilomètres), voilà un succès qui fait honneur aux deux pilotes Ihinouma et Toukakoshi qui ont conduit leur avion.

Ils sont passés à 14 h. 29 au Bourget venant d'Athènes et Rome et à 15 h. 16 ils reprenaient leur vol vers Londres où ils atterrissaient à 16 h. 30.

A leur passage sur notre aéroport ils ont été reçus par le colonel Kraemer qui, au nom du ministre de l'Air, leur a adressé les félicitations officielles, par M. Girardot, commandant du port, par le général Vuillemin, Pivolo, Doret, Détroyat, Codos, Rossi, Maryse Bastié, etc.

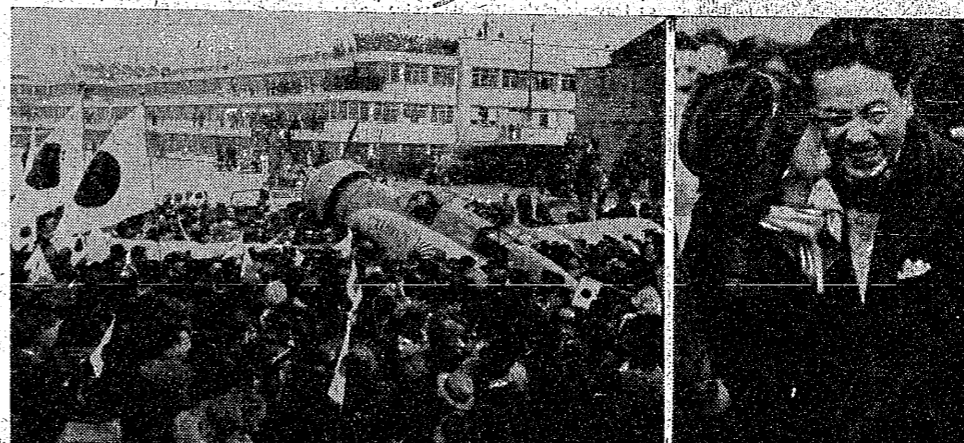
Les pilotes ont droit à toutes les félicitations pour l'excellente conduite de leur entreprise mais que, néanmoins, on ne jette pas pour cela la pierre à nos compatriotes qui sur la route France-Japon, ont échoué car la situation n'est pas la même dans le sens Est-Ouest que dans le sens Ouest-Est.

Et ajoutons que l'aviation japonaise a été partie créée par ceux qui ont été chargés de mission par le gouvernement français au Japon, général Faure, colonel Janneaud, M. Vernisse, etc., etc.

Ils en ont été les bons ouvriers et il nous est agréable d'en faire ici, aujourd'hui, la constatation. — Henry Larquey.

15.580 KILOMETRES EN 94 HEURES 13 MINUTES

LES AVIATEURS JAPONAIS ont atteint Londres hier à 16 h. 25



A gauche : Le « Vent-de-Dieu » vient de se poser sur l'aérodrome du Bourget. A droite : le pilote Ihinouma reçoit l'accolade de la célèbre aviatrice Maryse Hilsz.

LES DEUX PILOTES ont reçu au Bourget un accueil chaleureux

Après une bonne nuit à Athènes, les aviateurs japonais Ihinouma et Tsukakoshi ont repris leur vol hier matin à bord du Vent de Dieu, à 6 h. 40 (heure française d'été). A 9 h. 46 ils atterrissaient à Rome, où une chaleureuse réception les attendait. Moins d'une heure plus tard, à 10 h. 36 le Vent de Dieu volait vers Paris où il se posait au Bourget à 14 h. 29, soit 3 h. 53 m. après ayant ainsi couvert les 1.200 kilomètres qui séparent Rome de Paris à la moyenne de 307 kilomètres à l'heure.

A 15 h. 16 ils repartaient du Bourget pour Croydon-Londres, où ils se sont posés devant une assistance énorme et enthousiaste, à 16 h. 25 (heure d'été française).

André Reichel.

(Suite page 3, colonnes 1 et 2.)

L'opinion des "as" français sur la portée du raid

Déclarations faites au "Figaro" par : PAUL CODOS

Chef-pilote d'Air-France, recordman du monde de distance.

Je trouve que leur voyage est magnifique. Il est intéressant et plein d'enseignements en ce sens qu'il faut faire la comparaison entre le temps passé en vol et celui qu'ils ont passé au sol. Leur entreprise fait apparaître ainsi certaines possibilités pour une liaison éventuelle avec le Japon.

Je suis heureux de voir les Japonais pour leurs débuts dans le sport rejoindre les meilleurs sur ce plan sportif.

Quant à nous, j'estime et je m'en excuse, car cela est un peu une idée fixe, nous avons un gros problème à résoudre actuellement qui devrait voir tous nos efforts se concentrer sur lui : c'est celui de l'Atlantique-Nord.

MICHEL DÉTROYAT

Pilote d'essais national.

C'est une réussite magnifique. J'admire surtout la régularité et la prudence avec lesquelles ils ont accompli leur voyage qui constitue, à mon avis, une remarquable démonstration d'aviation commerciale. J'estime d'ailleurs que d'ici quelques années il sera possible de relier commercialement sans effort la France au Japon en moins de quatre jours. Il faut dire à la décharge des aviateurs français qui ont fait récemment plusieurs tentatives sur ce parcours, qu'il est plus facile de partir avec le mauvais temps et de terminer dans le beau temps. Il faut noter aussi qu'il est plus possible aujourd'hui avec des avions confortables et rapides, d'accomplir de tels voyages que des pionniers, comme Codos, Robida, Rossi, Costes ou Bellonte ont réalisés sur des avions moins bien aménagés et plus lents et qui demandaient, de ce fait, des efforts plus considérables.

LÉON CHALLE

Ce qu'ils ont fait est très bien et surtout très méthodique. Sans tirer, semble-t-il, le maximum de leur matériel, ce qui met davantage en valeur sa qualité, ils ont accompli très prudemment une liaison dont l'intérêt pratique dépasse...



### Des Jaunes volent de Tokio à Londres sur le "Vent-de-Dieu"

En moins de quatre jours relier Tokio à Londres (plus de 16.000 kilomètres) voilà un succès qui fait honneur aux deux pilotes Ihinuma et Tsukakoshi qui ont conduit leur avion.

Ils sont passés à 14 h. 29 au Bourget venant d'Athènes et Rome et à 15 h. 16 ils reprenaient leur vol vers Londres où ils atterrissaient à 16 h. 30.

A leur passage sur notre aéroport ils ont été reçus par le colonel Kraemer qui au nom du ministre de l'Air, leur a adressé ses félicitations officielles par M. Girardot, commandant du port, par le général Vuillemin, Pivoto, Doret, Déroyat, Codos, Rossi, Maryse Bastié, etc.

Les pilotes ont droit à toutes les félicitations pour l'excellente conduite de leur entreprise mais que, néanmoins, on ne jette pas pour cela la pierre à nos compatriotes qui sur la route France-Japon, ont échoué car la situation n'est pas la même dans le sens Est-Ouest que dans le sens Ouest-Est.

Et ajoutons que l'aviation japonaise a été partie créée par ceux qui ont été chargés de mission par le gouvernement français au Japon, général Faure, colonel Janneaud, M. Vernisse, etc.

Ils en ont été les bons ouvriers et il nous est agréable d'en faire ici, aujourd'hui, la constatation. — Henry Larquéy.

(Suite de la première page)

C'est ainsi en 94 heures et 13 minutes qu'ils ont accompli le parcours total de 15.580 kilomètres qui séparent Tokio de Londres.

C'est une performance exceptionnelle et dont l'aviation japonaise peut être fière. Nous louons sans réserve la jeune industrie japonaise de l'aéronautique, dont la production n'est sans doute qu'une copie des avions que nous avons vus déjà en Amérique et en France, mais qui n'en réalise pas moins une liaison difficile dans des conditions remarquables de vitesse et de régularité. Ce qu'il ne faut pas perdre de vue surtout, c'est que les aviateurs japonais — par mesure de prudence sans doute — n'ont volé que le jour, se reposant largement la nuit. Malgré cela, ils ont accompli le parcours total de 15.580 kilomètres en moins de quatre jours. Le seul énoncé d'un tel résultat suffit à montrer la qualité de leur exploit et fait apparaître la valeur du matériel employé.

Il n'est pas mauvais toutefois — ceci sans vouloir le moins du monde diminuer la performance japonaise — de rappeler que André Japy réalisant seul, à bord d'un Caudron-Renault, d'une puissance de 220 CV la liaison France-Japon, est allé de Paris à Fukuoka, soit 14.400 kilomètres, en 75 heures 44 minutes. Le malheureux arrêt, par suite des conditions atmosphériques défavorables d'un raid brillant, n'a pu tenir l'exploit de Japy qui s'apparente tout à fait à celui que viennent d'accomplir Ihinuma et Tsukakoshi.

#### La réception au Bourget

Le Bourget, 14 h. 29. Le haut-parleur annonce :

« L'avion Kamikaze, venant de Tokio, atterrit au Bourget. »

Deux mille personnes sont là, dont certains depuis le matin 9 heures, qui attendent cet atterrissage, deux mille personnes parmi lesquelles de nombreux membres de la colonie japonaise de Paris, tous porteurs du drapeau national, qu'ils agitent frénétiquement pendant que l'avion roule et vient se ranger sur l'aire de l'aéroport.

On se précipite vers lui, on l'entoure, et tandis que Ihinuma, le pilote, se dresse sur son siège, les bravos et les acclamations enthousiastes éclatent, montrant l'admiration que soulève l'exploit des deux pilotes nippons Ihinuma et Tsukakoshi.

En atteignant Paris, ils ont couvert 15.200 kilomètres en 92 heures et 17 minutes. Il y a moins de quatre jours, ils étaient encore au Japon. Les voici à Paris, frais et dispos. Dans l'aimable confusion qui préside au Bourget, les arrivées de grands raids au Bourget, les deux champions sont conduits au hangar où une courte réception est organisée. Cependant Tsukakoshi se soustrait à cette cérémonie et revient vers l'avion, dont il surveillera attentivement le ravitaillement en essence.

Ihinuma, lui, est accaparé, félicité. C'est le représentant de l'ambassadeur du Japon à Paris qui, le premier, adresse ses félicitations au triomphateur ; puis le colonel Kraemer, représentant M. Pierre Cot, ministre de l'Air, qui transmet à Ihinuma le texte d'un télégramme ministériel ainsi conçu :

« Pour avion J.B.A.A.I. — A votre passage en France, vous exprime mes vives félicitations pour ce beau voyage, exemple remarquable de maîtrise et de régularité. Vous avez établi une performance magnifique, qui fait honneur à l'aéronautique japonaise, une par des liens nombreux et anciens à l'aviation française. »

M. Outchiyama remercie, au nom de son pays, et les aviateurs prononcent les paroles suivantes, en réponse au télégramme du ministre :

« Nous remercions M. le ministre de son aimable message. Nous sommes très heureux d'avoir réussi à rallier la France. Nous sommes très émus du chaleureux accueil que les Français nous ont réservé et nous tenons à les remercier bien vivement de leur sympathie témoignée à notre raid. »

C'est ensuite le général Vuillemin, au nom de l'armée de l'Air, et Paul Codos, qui apporte les félicitations de l'aviation civile, enfin les champions français de l'air qui sont là : Michel Déroyat, Marcel Doret, Challes, Libert, Durmont, Laulhé, etc., qui ne manquent pas d'apporter à leur camarade japonais le témoignage de leur admiration. Nous avons noté également la présence de M. Wateau, président de l'Aéro-Club de France; de Mlle Suzanne Deutsch de la Meurthe, du docteur Béhague, de M. Michel Wibault, Villemetz, Hennessy, Girardot, directeur de l'Aéroport; Gauchet, Schneider et Costa de Beauregard, d'Air-France; Grimaud, Léon Bathiat, Mme Japy, mère d'André Japy; Mlle Maryse Hilsz, Mme de Lacombe, etc.

André Reichel.

### A Croydon, le public londonien acclame les deux pilotes

(De notre correspondant particulier, par téléphone.)

Londres, 9 avril. — Le « Vent-de-Dieu » apporte à Londres, du Japon, un message de bonne volonté et les vœux du couronnement. Aussi les aviateurs japonais ont-ils reçu à Croydon une ovation digne de leur exploit sans précédent. L'appareil n'était pas encore au Bourget que déjà s'assemblait aux alentours de Croydon le public impatient et tumultueux des grands événements sportifs. Ça et là se détachaient les tons violents des costumes nationaux qu'avaient revêtus quelques Japonais. Ils étaient 5.000 : l'ambassade du Japon au complet, les représentants du ministre de l'Air, ayant en main un message de félicitations de sir Philippe Sassoon, et de nombreuses personnalités connues.

Les aviateurs ont mis 1 h. 10 de Paris à Londres et à 8 h. 35, exactement (heure normale), le monoplane décrit trois cercles autour de l'aérodrome. Il est venu si rapidement que deux autres avions, partis à sa rencontre, paraissaient immobiles dans le ciel. Il se pose au centre du terrain. Des cris, des vivats, des drapeaux agités, la foule brise le cordon de police et Ihinuma souriant, quoique le visage tiré vers de la carlingue. Ses compatriotes l'entourent, le pressent. Deux petites filles lui tendent un bouquet de roses.

Tsukakoshi, le navigateur, apparaît à son tour, mais, pendant cette ovation, l'interprète a disparu. Les deux aviateurs japonais ne parlent pas l'anglais.

Ihinuma murmure au microphone : « Glad to be here » et fait un petit discours en japonais qui sera transmis là-bas, à Tokio, où l'on a ordonné trois jours de fêtes en son honneur.

Un peu plus tard, réconforté par un repas de riz dont il a emporté une provision à bord, et quelques heures de repos, le nouvel héros de l'aviation donne enfin quelques précisions sur son exploit, grâce à l'interprète qu'on a retrouvé.

« Le pire moment du voyage, dit-il, fut pendant les vingt-quatre premières heures après avoir quitté Tokio. Nous eûmes un temps terrible pendant toute une journée au-dessus de la mer, puis, plus tard, nous rencontrâmes un vent contraire au-dessus des Indes. Mais après nous ne trouvâmes que du soleil et un temps excellent. Le voyage fut moins fatigant et plus intéressant. Nous n'eûmes en tout que dix heures de sommeil et restâmes cinquante heures dans l'air. »

Ihinuma et Tsukakoshi ont l'intention de survoler mardi prochain le « Queen-Mary » en l'honneur du prince Chichibu qui vient, en Angleterre. Ils resteront en Europe jusqu'après le couronnement et ont l'intention de faire une visite dans les différents pays d'Europe. Ils ne retourneront pas au Japon avant un mois.

« Et nous ne savons pas encore, disent-ils, si nous essaierons de battre notre record sur le chemin du retour. »

Gerard Boutelleau

# Le raid de l'avion « Vent-de-Dieu » Tokio-Paris-Londres

Tokio-Paris : 92 h. 17'  
Tokio-Londres : 94 h. 13'

Se trouvaient sur le terrain : le colonel Kraemer, représentant M. Pierre Cot ; M. Ouchiyama, chargé d'affaires à l'ambassade du Japon à Paris ; M. Sagnetkou, rédacteur en chef pour l'Europe du journal Asahi, organisateur du raid ; le général Vuillemin ; le colonel Pelletier d'Oisy ; Mlle Japy mère ; M. Gauthier, directeur du réseau continental d'Air France ; Mme Jaffeu ; M. Grimault ; de nombreux pilotes français et toute une colonie de Japonais de Paris qui avaient eu la délicate attention d'apporter des drapeaux de leur pays avec lesquels ils encerclèrent l'appareil tandis que les aviateurs descendaient et serraient des mains.

Il y eut ensuite une courte réception dans un hangar de l'aéroport, et le colonel Kraemer lut le message de M. Pierre Cot, ministre de l'air, message que nous publions d'autre part. L'équipage ne s'attarda pas, car il voulait terminer le voyage en ralliant Londres. Après quarante-sept minutes d'arrêt, le petit monoplane bleu et jaune prit son vol pour Croydon où son arrivée était signalée une heure plus tard. La réussite était complète.

Les moyennes du record En se basant sur une distance totale de 15.000 kilomètres environ entre Tokio et Londres, via Hanoi, Athènes, Rome et Paris, la moyenne commerciale horaire du voyage, escales comprises, s'établit à 158 kilomètres environ.

Mais pour l'homologation officielle du record, la Fédération aéronautique se basera sur la distance en ligne droite, soit 9.117 kilomètres. Alors la moyenne horaire tombera à 103 kilomètres.

Enfin, si on déduit le temps total des arrêts aux escales, soit 42 h. 14' et que l'on calcule sur les 53 h. 3' de vol effectif et les 15.000 kilomètres réellement parcourus, la moyenne du vol est de 283 kilomètres-heure.

### Un message japonais pour la France

Les aviateurs japonais Ihinuma et Tsukagoshi étaient porteurs d'un message de M. Uyeno, directeur du journal Asahi. Voici le texte de ce message :

M. Uyeno, directeur du journal Asahi, organisateur du raid aérien Tokio-Hanoi-Paris-Londres, adresse au peuple français, par l'entremise confraternelle de la presse, son sincère salut et l'assurance de sa vive sympathie.

Il est très heureux d'avoir pu confier ce message à ses vaillants aviateurs Ihinuma et Tsukagoshi, comme il a déjà eu le plaisir de le faire en 1925 par l'intermédiaire des deux équipages Abe-Shinohara et Kawachi-Katakimi.

Les félicitations de M. Pierre Cot M. Pierre Cot, ministre de l'air, a fait parvenir le message suivant aux aviateurs Ihinuma et Tsukagoshi, pendant qu'ils survolaient la France :

A votre passage en France, vous exprime mes vives félicitations pour très beau voyage. Exemple remarquable de maîtrise et de régularité. Vous avez établi une performance magnifique qui fait honneur à l'aéronautique japonaise unie par des liens nombreux et anciens à l'aviation française.

### « Nous reviendrons dans trois ou quatre jours »

Répondant au message de M. Pierre Cot, ministre de l'air, l'équipage japonais du Vent-de-Dieu a envoyé le message suivant :

Merci de vos vœux. Nous reviendrons vous voir dans trois ou quatre jours. Au revoir.

### Le tableau de marche

Voici le tableau de marche complet de l'avion. (Les heures sont G. M. T., c'est-à-dire celles du méridien de Greenwich) :

5 avril, 17 h. 12 :	Dép. de Tokio ;
6 avril, 0 h. 14 :	Arr. à Formose ;
1 h. 19 :	Dép. de Formose ;
7 h. 28 :	Arrivée à Hanoi ;
8 h. 40 :	Dép. de Hanoi ;
10 h. 50 :	Arr. à Vientiane ;
23 h. 28 :	Dép. de Vientiane ;
7 avril, 4 h. 36 :	Arr. à Calcutta ;
5 h. 30 :	Dép. de Calcutta ;
14 h. 20 :	Arr. à Karachi ;
8 avril, 0 h. 15 :	Dép. de Karachi ;
6 h. 45 :	Arr. à Bassorah ;
7 h. 35 :	Dép. de Bassorah ;
10 h. 15 :	Arr. à Bagdad ;
10 h. 5 :	Dép. de Bagdad ;
16 h. 15 :	Arr. à Athènes ;
9 avril, 5 h. 40 :	Dép. d'Athènes ;
8 h. 46 :	Arr. à Rome ;
9 h. 36 :	Dép. de Rome ;
13 h. 29 :	Arr. à Paris ;
14 h. 16 :	Dép. de Paris ;
15 h. 25 :	Arr. à Londres.

### L'arrivée triomphale à Croydon

LONDRES, 9 avril. — Téléph. Matin. — Sept mille personnes, dont plusieurs centaines de Japonais brandissant presque tous les couleurs nationales, ont fait une ovation enthousiaste au monoplane Vent-de-Dieu, qui a atterri et atterrit à 15 h. 25 G. M. T. sur l'aérodrome de Croydon.

Pendant plus d'une demi-heure, la foule poussa des hurrahs et agita des centaines de drapeaux. Cet intermède bruyant permit à M. Yoshida, qui avait été retenu à Londres par des affaires diplomatiques, d'arriver à temps sur le terrain pour saluer en personne les aviateurs.

Il y eut aussi toute une série d'allocutions en japonais auxquelles les deux héros répondirent par des saluts très cérémonieux.

Pourtant, leur joie ne connaît pas de borne, ce qui est bien compréhensible, après une aussi belle performance. Mardi, Ihinuma et Tsukagoshi, à bord du Vent-de-Dieu, s'élanceront au-dessus de la Manche pour se rendre à la rencontre du transatlantique Queen-Mary, amenant en Angleterre pour le couronnement le prince Chichibu, frère du Mikado.

Pour ce salut en mer, a déclaré le pilote, nous atteindrons la vitesse de 300 milles à l'heure et exécuterons un plongeon au-dessus du navire, puis laisserons tomber sur son pont des drapeaux japonais.

### Explosion de joie à Tokio

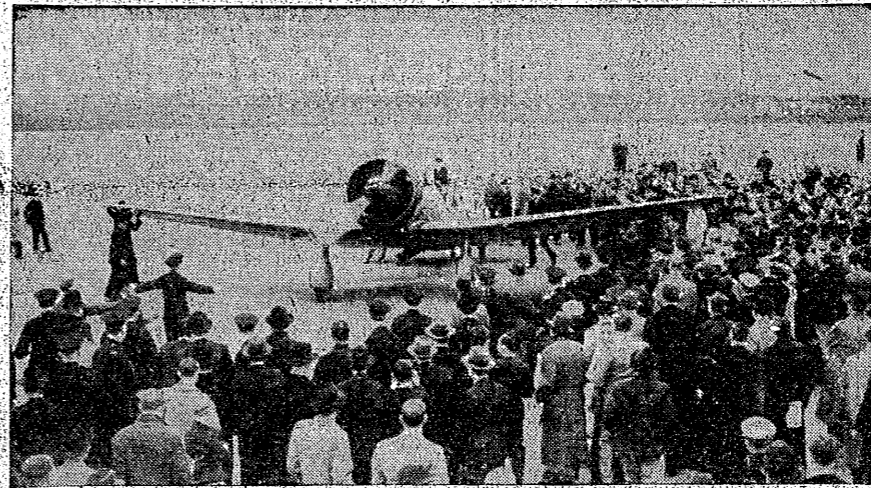
TOKIO, 9 avril. — (Dép. Havas.) — Une ovation formidable s'est élevée de la foule qui entourait l'immeuble du journal Asahi quand l'écran lumineux annonça l'arrivée du Vent-de-Dieu au Bourget.

L'Aéro-Club Impérial prépare, en l'honneur des aviateurs, trois journées de réjouissances à Tokio et Osaka. Jusqu'au dernier moment, de nombreux pèlerins ont prié jour et nuit pour le succès du pilote Ihinuma devant le temple de Shinano, son village natal.

# L'AVION JAPONAIS « VENT-DE-DIEU » A MAGNIFIQUEMENT RÉUSSI SON RAID TOKIO-PARIS-LONDRES

Mais le record Paris-Hanoi d'André Japy n'est pas battu : 50 h. 59 contre les 76 h. 49 des Japonais

L'équipage a été reçu hier avec enthousiasme successivement à Rome, Paris et Londres



A l'arrivée du « Kamikaze » à Croydon la foule enthousiaste se précipite avant même que l'hélice soit arrêtée

Tokio-Paris en 92 heures 17 minutes / Tokio-Londres en 94 heures 13 minutes /

Tel est, résumé, le magnifique exploit que viennent de réaliser les aviateurs japonais Ihinuma, pilote, et Tsukagoshi, radionavigant, faisant l'équipage à bord de l'avion Kamikaze ou Vent-de-Dieu.

C'est la première fois qu'un raid Tokio-Londres est tenté et réussi. C'est la première fois que la liaison Tokio-Paris est faite en moins de cent heures et si l'on peut parler de record, il faut rappeler que la distance Tokio-Paris, par le Japon, est de 9.117 kilomètres par Croydon et Le Brix terminant le tour du monde en avril 1928. Mais les matériels ne peuvent se comparer à neuf années de distance et il faut se reporter au raid du Français André Japy en novembre dernier pour avoir un juste point de comparaison.

Quand le même Japy heurta la montagne à Fukuoka, au sud du Japon, il lui restait huit cents kilomètres à couvrir pour atteindre Tokio et comme, à ce moment-là, il avait quitté Paris depuis 78 heures 14 minutes, on peut en déduire que, sans son malheureux accident

du au mauvais temps, il aurait fait Paris-Tokio en 59 heures soit avec un avantage de dix heures sur les Japonais.

Cela n'enlève rien à la performance du Vent-de-Dieu dont l'horaire, soigneusement établi à l'avance, a été scrupuleusement suivi par le pilote.

Il s'agissait d'atteindre le but en moins de cent heures sans courir de risques inutiles. Pour cela, l'équipage a volé uniquement de jour, franchissant régulièrement quatre mille kilomètres entre le lever et le coucher du soleil qui correspondaient avec le lever et le coucher des hommes. Partant à l'heure dite, on arrivait à l'heure dite et le but était atteint sans encombre malgré pas mal de difficultés atmosphériques en particulier sur le désert d'Arabie où soufflait une tempête de sable.

### La dernière journée

La dernière journée du voyage se passa comme les précédentes, selon les prévisions. L'avion japonais s'envola d'Athènes le matin à 8 h. 40 et fit escale à Rome de 8 h. 46 à 9 h. 36 pour ne plus faire qu'un bond jusqu'au Bourget, où on l'attendait un peu plus tôt que 14 h. 30, heure d'été de France 13 h. 29 G. M. T. heure à laquelle le petit monoplane se posa et roula jusqu'à l'aire d'atterrissage où attendaient de nombreuses personnes.

(Voir la suite en Dernière

Oronhe

10 . 4 - 1937

### L'extraordinaire raid du "Vent-de-Dieu"

Les aviateurs japonais ont  
atterri à 16 h. 25 à Croydon

L'extraordinaire raid du Vent-de-Dieu est terminé.

Hier matin, l'avion japonais, qui avait quitté Athènes à l'aube, atterrissait à 8 h. 45 à l'aérodrome romain de Montecello. L'ambassadeur du Japon, M. Sugimura, vint féliciter ses compatriotes. L'avion fut ravitaillé et, à 10 h. 26, s'envola à nouveau.

Suivant scrupuleusement leur horaire, Tsukakoshi et Ihinima sont arrivés au Bourget, à 14 h. 34. Ils avaient couvert l'escale de 1.150 kilomètres en 3 h. 58 minutes.

Ils furent l'objet d'un accueil enthousiaste. Une foule nombreuse les attendait depuis des heures. Avec les personnalités de la colonie japonaise, les chargés d'affaires à l'ambassade du Japon et les attachés militaires, le général Vuillemin, le colonel Kraemer, qui représentait M. Pierre Cot, étaient venus recevoir les aviateurs.

Pendant que le navigateur surveillait le ravitaillement de l'avion, le pilote se dirigea vers un hangar où Air France avait organisé une réception. Le colonel Kraemer lut un message de félicitations de M. Pierre Cot, et on but un champagne d'honneur pendant que la foule acclamait les pilotes.

A 15 h. 16, le Vent-de-Dieu décollait. Les aviateurs japonais, à bord du Vent-de-Dieu, sont arrivés à l'aérodrome de Croydon, terme de leur randonnée, à 16 h. 25.

Pendant les fêtes du Couronnement, le Vent-de-Dieu fera la navette entre Londres et Rome.

Special Issue

10 - 4 - 1937

# Le "Vent-de-Dieu" a réussi Tokio-Croydon en 94 heures 13 minutes

La première liaison aérienne, Tokio-Londres, en moins de cent heures, est réalisée. Le "Vent-de-Dieu" a quitté son aéroport de Croydon hier à 15 h. 23 (G.M.T.), et s'est arrêté à 14 h. 20 à Tokio. Les deux avions japonais ont été envoyés à la fois à 17 h. 12 (G.M.T.). Ils atterrirent mardi à 10 h. 50 à Yonohane, au Laos, mercredi, à 14 h. 20 — nous nous ba-



A l'arrivée à Croydon, le pilote Hinonuma est entouré par les policiers.

sous toujours sur Greenwob. Il était à Karachi, et jeudi, à 13 h. 20, à Bombay, où pour l'instant, il n'est rien de connu. Le départ d'Albanas, effectué à 5 h. 40. Une brève escale à Rome, de 8 h. 46 à 9 h. 38 et les aviateurs repartent pour le Bourget, où ils se reportent et se posent à Croydon, but de leur voyage, à 16 h. 25. Les 18.700 kilomètres du parcours Tokio-Rome avaient donc été couverts en 94 h. 13, soit à la moyenne de 110 km. par heure. Les deux avions ont volé sur une altitude moyenne comprise entre 321 h. 29 à 300 kilomètres à l'heure. Les chiffres sont floppants !

## Le passage des océans japonais au Bourget

La réception n'avait pas été moins enthousiaste au Bourget où l'on notait de nombreuses personnalités françaises et japonaises. Citons notamment : M. Ouchiyama, chargé d'affaires à l'ambassade de France à Tokio, M. Kuroki, attaché militaire et attaché naval à l'ambassade de France à Tokio, M. Yamada, capitaine de l'aviation, représentant M. Pierre Oki, ministre de l'Air, le colonel Follelier et M. Kikuchi, représentant M. Pierre Oki, ministre de l'Air. Le commandant Follelier a été salué, des hommes et des femmes brandissant des petits drapeaux japonais se précipitèrent vers

## A 340 KILOMÈTRES A L'HEURE AVEC LE "VENT-DE-DIEU"

(Suite de la page 1, colonne 3.) Nous nous sommes regardés, très inquiets, un peu angoissés. Notre appareil nous permettra-t-il de rattraper le leur, pourrions-nous le photographier et le filmer, en vol ? La manette des gaz est poussée, à fond. Notre « zinc » vibre, tremble, et sans même que nous ayons à regarder les instruments nous le sentons qui, dans un piqué puissant, réussit à se placer côte à côte avec l'appareil japonais, dont le nom et le matricule éclatent en grandes lettres sur le fuselage.

— Qu'il est petit ! — Oui, mais quelle ligne, et comme il est beau ! Nous nous attendions à trouver un appareil de l'avergue d'un « Point-d'Interrogation », d'un « Trait-d'Union », et le « Vent-de-Dieu » est à peine plus grand qu'un « Simoun » ! Son fuselage, précédé d'un moteur en étoile, s'allonge entre deux ailes de forme très pure. Nous distinguons, à l'abri dans une conduite intérieure en rhododé, les silhouettes vêtues de clair du pilote, à l'avant, et du radio, travaillant à l'arrière juste avant la dérive.

Sous nos ailes la terre s'enfuyait à une vitesse perceptible. Chantilly était déjà loin derrière nous. La campagne s'était parée, pour recevoir les aviateurs japonais ; les bois étaient ornés par la blancheur des sapins et les vergers roses et blancs s'efforçaient de rappeler aux nouveaux arrivants la fête des cerisiers et des pêchers de leur lointain pays.

Le « Vent-de-Dieu », le premier, a balancé ses ailes en signe amical. — Il nous a vus ! hurons-nous enthousiasmés. La silhouette du minuscule monoplane gagne et nous dépasse. Drouillet a encore ouvert les gaz et notre route en avant s'égalise à celle de l'appareil nippon.

Presque aile dans aile nous avons continué le vol. Nous avons vu Hinonuma lever le bras, agiter la main dans notre direction. Dans notre cabine son geste a déclenché les rires. Hurlements, soubriols de bon voyage d'autant plus vains que le tonnerre de notre propre moteur déchirait à son passage le silence du ciel. Le tableau de bord, le compte-tours était bloqué à 2.200, régime maximum du moteur, l'indicateur anticarsin de vitesse oscillait sur l'échelle de 207 milles (340 kilomètres). Un dernier adieu ; bousculant sur l'aile, nous avons fait demi-tour et redé-

l'avion est arrivé, littéralement les vitres de l'avion, par quinze secondes, action et il s'arrêta le plein d'essence, tandis qu'Hinonuma, chargé de fleurs, était entraîné vers un hangar où, nous ne sommes pas sûr, il n'y avait pas de réception. On nous avait organisé par ailleurs un service de réception. On nous avait organisé par ailleurs un service de réception. On nous avait organisé par ailleurs un service de réception.

## L'arrivée à Croydon

Lorsque, 9 avril, — Une foule considérable dans laquelle on remarquait de nombreux membres de la colonie japonaise, Hinonuma et Fukuchishi, à leur arrivée à Croydon.

Après avoir pris contact avec le sol à 15 h. 30 exactement, à l'extrémité du petit aéroport, nous avons été accueillis par un service de réception organisé et installé sur l'esplanade de l'aéroport. Les deux aviateurs, sous le regard de la foule, descendirent de l'appareil fait pris d'assaut par une foule hurlante contenue à grand-peine par le service d'ordre. Au moment même de l'At. M. C. T. G. nous avons vu l'aviation civile grouper-met et accueillir le premier des deux héros du raid et leur a lu un message de bienvenue.

Après cette réception, à l'indépendance de l'aviation civile, nous sommes rendus dans un grand hôtel du West End où ils se proposent de demeurer une dizaine de jours.

Les services téléphoniques entre Paris et Londres ont été interrompus pendant ces heures et il n'est pas possible de téléphoner à leurs familles ainsi qu'ils se le proposaient.

## L'HORAIRE DU RAID DU "VENT-DE-DIEU"

	LE LUNDI	LE MARDI
Depart Tokio	17 h. 12 (G.M.T.)	
Arrivee Pankou	9 h. 14	
Arrivee Canton	10 h. 25	
Arrivee Hankou	7 h. 28	
Depart Hankou	8 h. 40	
Arrivee Nankin	10 h. 40	
Depart Nankin	11 h. 20	
Arrivee Canton	23 h. 26	
Arrivee Caracis	4 h. 38	
Depart Caracis	10 h. 30	
Depart Josphur	11 h. 20	
Arrivee Karachi	13 h. 20	
Depart Karachi	14 h. 42	
Arrivee Bombay	6 h. 42	
Depart Bombay	15 h. 25	
Arrivee Bagdad	9 h. 15	
Depart Bagdad	10 h. 30	
Arrivee Aden	10 h. 30	
MILITAIRES		
Depart Zamboungue	8 h. 46	
Arrivee Rome	8 h. 46	
Depart Rome	9 h. 36	
Arrivee Paris	14 h. 34	
Depart Paris	14 h. 34	
Arrivee Croydon	15 h. 16	
Depart Croydon	15 h. 22	

sont les gaz, nous sommes rentrés à allure plus modérée, exaltés par cette brève course aile dans aile. Il nous faut avoir été les seuls à pouvoir escorter le magnifique équipage nippon.

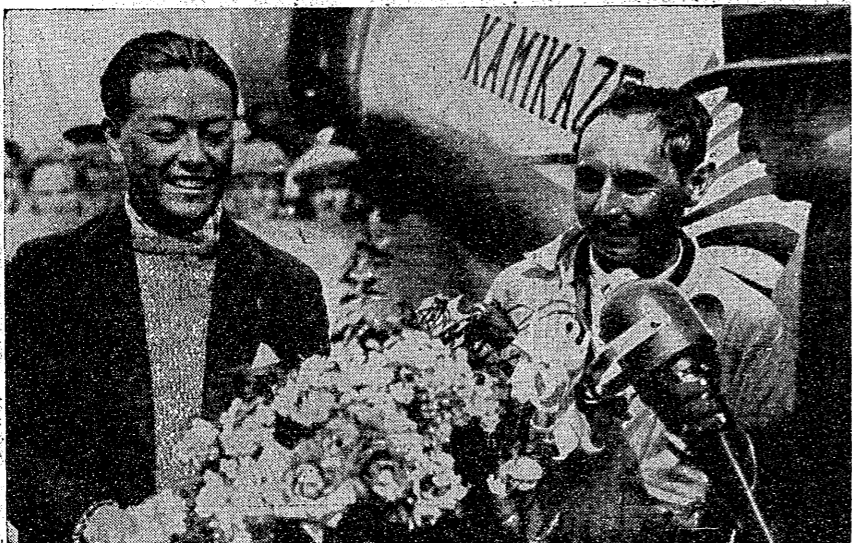
Jacques ZIMMERMANN

Excelsior 10 - 4 - 1937

### L'ESCALE DE L'AVION JAPONAIS "VENT-DE-DIEU" AU BOURGET



LES MEMBRES DE LA COLONIE JAPONAISE DE PARIS ETAIENT VENUS NOMBREUX A L'AERODROME POUR ACCLAMER LEURS GLORIEUX COMPATRIOTES.



APRES LEUR ATERRISSAGE, LE PILOTE IHI NOUMA (à g.) ET LE RADIO TSUKAGOSHI, LES BRAS CHARGES DE FLEURS, POSENT DEVANT L'OBJECTIF ET PARLENT AU MICRO.



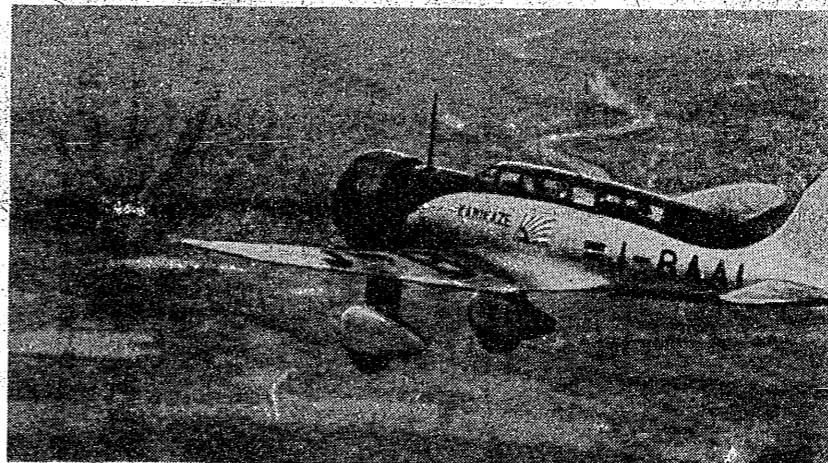
PENDANT QUE LES DEUX AVIATEURS SONT ACCAPARES PAR LEURS COMPATRIOTES ET QUE LA FOULE SE PRESSE AUTOUR DE L'APPAREIL, LES CINEASTES OPERENT, JUCHES SUR LEURS VOITURES. (Reportage photographique « Excelsior »)

Excelsior 10 - 4 - 1937

### ACHEVANT TRIOMPHALEMENT SON RAID FOUDROYANT LE "VENT-DE-DIEU" S'EST POSE HIER A CROYDON A 15 H. 25 (G. M. T.)

94 heures 13 minutes après son envol de Tokio  
soit à la moyenne de 170 kilomètres à l'heure

SON ÉQUIPAGE AVAIT ÉTÉ ACCLAMÉ A SON ESCALE AU BOURGET  
(LIRE LES INFORMATIONS EN D. H.)



EN VOL AU NORD DE L'OISE  
LE « VENT-DE-DIEU », PHOTOGRAPHIE DE L'AVION A BORD DUQUEL AVAIT  
PRIS PLACE NOTRE ENVOYE SPECIAL (Photo Pathé-Journal).

### A 340 km. à l'heure aile dans aile avec le "Vent-de-Dieu"

de notre envoyé spécial M. JACQUES ZIMMERMANN

Sur l'aire grise du Bourget un cercle parfait s'est formé autour d'un minuscule, T'bleu clair et crème qui vient de s'y poser. Le « Vent-de-Dieu » que nous cherchions depuis une heure parmi les nuages, entre Melun et Fontainebleau, échappant à nos recherches, vient d'arriver.

Que se passe-t-il en bas ? Les officiers accueillent sans doute les nouveaux recordmen, congratulent, félicitent l'équipage du « Kamikazé ».

Mais voici que pendant que nous tournons au-dessus de l'aéroport, l'anneau se brise, se transforme en demi-cercle. L'éclat brillant et circulaire d'une hélice en marche nous révèle un moteur en train de chauffer.

Tout doucement, le petit monoplan s'en va prendre la piste de départ, y stoppe, puis s'élance. Il nous a suffi de le voir courir au sol pour préjuger de la puissance et de la finesse de son envol. Un tour, deux tours pour prendre de la hauteur et le « Vent-de-Dieu » triomphalement prend son cap vers Londres.

(Suite en Dernière Heure)

Entraideant 10 - 4 - 1937

# Le raid Tokio-Hanoï-Paris-Londres

» Suite de la première page

Par contre, le « Vent de Dieu » n'a pu ravir à Codos-Robida le record Hanoï-Paris, porté à 3 jours 4 heures 11 minutes avec un avion qui ne dépassait pas la vitesse de 220 kilomètres-heure. Pour éclipser l'exploit de Codos et de Robida les aviateurs japonais auraient dû arriver au Bourget avant 12 heures 54.

A la randonnée Tokio-Hanoï-Paris en 92 heures 18 minutes des japonais, nous opposons l'expédition d'André Japy terminée par un accident à 1.000 kilomètres de Tokio : France-Japon en 72 heures.

Mais il convient de souligner particulièrement que le premier raid japonais

entre Tokio et Paris a été accompli par Abé-Shinobu et Kawatchi-Katachiri en 2 mois et 3 jours en passant par la Sibérie et Moscou.

1925 : Tokio-Moscou-Paris : 2 mois et 3 jours.

1937 : Tokio-Hanoï-Paris : 3 jours 20 heures 18 minutes.

## La méthode des Japonais

Ce n'est pas seulement le progrès obtenu dans l'aviation qui est exprimé par la différence entre la durée de ces deux voyages, mais aussi la faculté d'assimilation des aviateurs japonais.

Ihinouma et Tsukakoshi n'ont pas volé de nuit, à la fois pour ne pas compromettre leur entreprise, assurer leur sécurité, ne pas soumettre leur moteur à un régime trop sévère et pour ne pas se surmener. Quand ils ont atterri à Athènes, hier, à 17 heures 15 — 71 heures 3 minutes après leur départ de Tokio — ils étaient exténués. Ils avaient frôlé les limites de leur résistance physique, alors que leur performance, excellente pour eux, correspond au rendement des matériels modernes.

Les deux japonais ont franchi, le premier jour, 4.500 kilomètres en trois étapes — Tokio-Ile Formose-Hanoï-Vientiane — le deuxième, 4.000 kilomètres en trois étapes — Vientiane-Calcutta-Karachi — et le troisième, 4.400 kilomètres en trois étapes — Karachi-Bassorah-Bagdad-Athènes.

Ils ont pris 12 heures 36 minutes de repos à Vientiane, 10 heures 55 à Karachi et 13 heures 25 à Athènes.

Ils ont fait successivement escale à l'île Formose (1 h. 05), Hanoï (1 h. 23), Vientiane (12 h. 36), Calcutta (34 minutes), Jodhpur (30 minutes), Karachi (10 heures 55), Bassorah (50 minutes), Bagdad (48 minutes), Athènes (13 heures 25), et Rome (48 minutes).

Sur la durée totale de 3 jours 20 heures 18 minutes, de Tokio à Paris, le « Vent de Dieu » a volé pendant 49 heures 04 minutes et s'est arrêté pendant 43 heures 14 minutes. — R. P. DE T.

## L'arrivée à Rome

(DE NOTRE ENVOYÉ PERMANENT)

ROME, 9 avril

Le « Vent du Ciel », parti à 18 h. 12 (heure d'été de Paris), a fait escale à Rome ce matin, à 9 h. 48, venant d'Athènes, où ils avaient atterri hier, à 17 heures 15 (heure d'été de Paris).

Le personnel de l'ambassade, y compris l'ambassadeur, Son Excellence Sugimura, les dames et jeunes filles, dont quelques-unes en costume national — charmantes Butterfly — attendaient depuis longtemps à l'aéroport du Littorio, tenant à la main deux petits drapeaux de papier japonais et italien.

A 9 h. 43, l'avion nippon est signalé, précédé de trois appareils militaires italiens qui étaient allés à sa rencontre.

## Enthousiasme

Les drapeaux japonais s'agitent dans toutes les mains. Les deux aviateurs,

après avoir posé pour le cinéma et les photographes, sont entraînés vers un buffet, où on leur offre du moussoux et des gâteaux. Mais le mécanicien demeure près de son appareil pour veiller au plein d'essence. L'ambassadeur Sugimura, une coupe à la main, pousse trois fois un cri en langue nipponne qui signifie : « Vive le Japon ! Vive l'empereur ! Vive l'Asaki ! »

Les deux aviateurs annoncent leur intention de repartir immédiatement. Les voici maintenant interrogés par des confrères japonais qui traduisent pour ceux qui ne savent pas la langue nipponne.

« Notre voyage s'est effectué avec beaucoup de régularité. Nous ne sommes pas fatigués, mais nous sommes très satisfaits.

Le trajet d'Athènes à Rome a été contrarié par le vent et ensuite facile, malgré la traversée des Apennins.

A 10 h. 22, les deux aviateurs remontent dans la carlingue. L'hélice est mise en marche. L'appareil prend le départ à 10 h. 26, tandis que la petite colonie japonaise, agitée frénétiquement les drapeaux de papier.

MAURICE MONTABRE.

## L'escale au Bourget

Sans aucune hâte, le pilote Ihinouma a atterri à 14 h. 30 devant S.E. l'ambassadeur du Japon, le personnel de l'ambassade et plusieurs centaines de personnes, tandis que dans le ciel évoluaient des groupes et des escadres de la base de Dugny-Le Bourget.

Le lieutenant-colonel Peletier-Doisy, qui réalisa le premier un raid Paris-Hanoï-Tokio, Doret, Libert, qui tentèrent en vain d'effectuer le vol Paris-Hanoï-Tokio en moins de 100 heures, Codos, Challes, Détroyat, le général Vuillemin, le colonel Kraener, qui représentait le ministre de l'Air, M. Watteau, Mlle Deutsch de la Meurthe, l'ingénieur Vernisse, le pilote Decker, qui furent les instructeurs des aviateurs japonais, étaient présents au Bourget au moment de l'arrivée.

Aussitôt arrêtés, sur l'aire de ciment de l'aéroport, les deux aviateurs répondirent tout souriants aux acclamations de leurs compatriotes qui agitaient au-dessus de leur tête de petits drapeaux aux couleurs de l'Empire du Soleil Levant.

Ihinouma et Tsukakoshi avaient repris leur vol de Rome à 10 h. 26, après avoir quitté Athènes ce matin à 6 h. 40.

## Le départ du Bourget

Après une petite réception organisée dans l'un des hangars du Bourget, tandis que les mécaniciens faisaient le plein d'essence, l'équipage japonais a repris son vol pour Londres, terme de son voyage, à 15 h. 15.

## Un télégramme de M. Pierre Cot

M. Pierre Cot, ministre de l'Air, a fait parvenir le message suivant aux aviateurs Ihinouma et Tsukakoshi, pendant qu'ils survolaient la France :

A votre passage en France, vous exprime mes vives félicitations pour très beau voyage, exemple remarquable de maîtrise et de régularité. Vous avez établi une performance magnifique qui fait honneur à l'aéronautique japonaise et par des liens nombreux et anciens à l'aviation française. — PIERRE COT.

F-0354

0094

Temps

10 - 4 - 1937

### Le raid aérien Tokio-Paris-Londres

#### Les aviateurs japonais ont atterri au Bourget

Venant d'Athènes, qu'il avait quitté à 5 h. 40 (G.M.T.), l'avion japonais *Vent-de-Dieu* a atterri à Rome, sur l'aérodrome du Licteur, à 8 h. 46, ce matin.

Les aviateurs japonais Masaaki Ihinuma et Tsukagoshi ont déclaré qu'ils étaient enchantés de leur raid, et qu'ils espéraient arriver à Londres en quatre-vingt-dix heures, soit avec dix heures de moins que les cent heures fixées. Le ravitaillement en essence a duré environ une heure. Pendant ce temps, les pilotes ont été emmenés au mess où un petit déjeuner leur a été servi, et où des toasts ont été échangés.

Le *Vent-de-Dieu* est reparti de Rome à 9 h. 36, à destination du Bourget, où il a atterri à 14 h. 34.

Les aviateurs, qui avaient été reçus à leur descente d'avion par M. Girardot, commandant de l'aéroport et par un représentant du ministère, ont été invités à une légère collation servie dans un des hangars de l'aérodrome.

Pendant que l'équipage est l'hôte du commandant de l'aéroport, des mécaniciens procèdent au plein d'essence, les aviateurs, devant s'envoler aussitôt pour Londres.

#### Un télégramme de M. Pierre Cot

M. Pierre Cot, ministre de l'air, a fait parvenir le message suivant aux aviateurs Ihinuma et Tsukagoshi pendant qu'ils survolaient la France:

A votre passage en France vous exprime mes vives félicitations pour très beau voyage, exemple remarquable de maîtrise et de régularité. Vous avez établi une performance magnifique qui fait honneur à l'aéronautique japonaise, unie par des liens nombreux et anciens à l'aviation française.

PIERRE COT

Intertransigeant

10 - 4 - 1937

## TOKIO-PARIS

### en 92 h. 18'

tel est l'exploit accompli  
par l'avion japonais  
« *Vent de Dieu* »

Le record de Costes-Le Brix, établi en 1928,  
est battu de 63 heures 35'

Mais non celui de Codos-Robida: Hanoi-Paris en 3 jours 4 h. 11'

Les aviateurs nippons ont repris leur vol  
du Bourget à 15 h. 15 pour gagner Londres



Les aviateurs japonais Ihinuma et Tsukagoshi (à droite) sont félicités, après leur atterrissage à Rome, par M. Sugimura (X), ambassadeur du Japon en Italie

DE NOTRE CORRESPONDANT PARTICULIER PAR BELINOGRAMME  
L'avion japonais « *Vent de Dieu* », qui s'est envolé de Tokio lundi à 18 heures 12, a heure de Paris, a atterri au Bourget cet après-midi à 14 h. 30.

Bien que ne volant qu'entre le lever et le coucher du soleil le pilote Ihinuma et le radio-mécanicien Tsukagoshi ont réalisé la liaison Tokio-Hanoi-Paris en 3 jours 20 heures 18 minutes.

Cette performance est tout à l'honneur de l'équipage comme de la nouvelle industrie aéronautique du Japon qui, après s'être assuré le concours d'ingénieurs étrangers, a dessiné et construit un avion rapide un monoplan dont la vitesse des 600 kilomètres-heure.

Le voyage aérien Tokio-Hanoi-Paris

a été effectué en moins de 100 heures, exactement en 92 heures 18 m. (c'était l'ambition d'André Jany, de Péraud-Denis, Dorci-Michelotti et Étienne Dente de relier Paris à Tokio en moins de 100 heures).

**Les précédents records**  
Le « *Vent de Dieu* » a surpassé le record Tokio-Hanoi-Paris qui a été établi en avril 1928 — il y a exactement neuf ans — par Costes et Le Brix avec le « *Nungesser-Coll* », qui rentrait d'Amérique après avoir franchi le premier l'Atlantique-Sud sans escale de Saint-Louis du Sénégal à Natal.

Le record de Costes-Le Brix

F-0354

0095

国立公文書館 アジア歴史資料センター  
Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>